松山歯科衛生士専門学校

令和5年度

授業計画

〒790-0063　松山市辻町1-33
〈歯科衛生学科 職員室〉　TEL 089-925-6144
FAX 089-923-9888

目　次

1年

基礎分野　生化学・・・1
情報処理論・・・2
コミュニケーション論・・・3
専門基礎分野　解剖学・・・4
生理学・・・5
栄養学・・・6
組織発生学・口腔解剖学・・・7
歯牙解剖学・・・8
口腔生理学・・・9
病理学・口腔病理学・・・10
微生物学・口腔微生物学・・・11
薬理学・歯科薬理学・・・12
専門分野　歯科衛生士概論・・・13
歯科臨床概論・・・14
保存修復学・・・15
歯科放射線・・・16
歯科予防処置論Ⅰ・・・17,18
歯科保健指導論Ⅰ・・・19
歯科診療補助論Ⅰ・・・20～22
臨床実習Ⅰ・・・23
選択必修分野　歯科医療総論Ⅰ・・・24,25

2年

基礎分野　心理学・・・26
英語・・・27
専門基礎分野　医学の基礎知識・・・28
専門分野　歯内療法学・・・29
歯周病学・・・30
歯科補綴学・・・31
口腔外科学・・・32
小児歯科学・・・33
歯科矯正学・・・34
高齢者歯科・・・35
障害者歯科・・・36
歯科予防処置論Ⅱ・・・37
歯科保健指導論Ⅱ・・・38
歯科診療補助論Ⅱ・・・39
看護学・・・40
介護技術論・介護技術演習・・・41
臨床実習Ⅱ・・・42
臨地実習Ⅰ・・・43
臨地実習Ⅰ（介護施設実習）
選択必修分野　歯科医療総論Ⅱ・・・44～46

3年

専門基礎分野　口腔衛生学・・・47
歯科保健統計学・・・48
衛生学・公衆衛生学・・・49
衛生行政・社会福祉・・・50
専門分野　歯科予防処置論Ⅲ・・・51
歯科保健指導論Ⅲ・・・52
訪問歯科保健指導・・・53
歯科診療補助論Ⅲ・・・54
歯科材料学・・・55
臨床検査・・・56
臨床実習Ⅲ・・・57
臨地実習Ⅱ・・・58
選択必須分野　社会保険医療事務歯科・・・59,60
摂食機能訓練法・・・61
歯科医療総論Ⅲ・・・62,63
手話・・・64

※　2年次3年次については計画である

カリキュラム表・・・65
カリキュラム担当講師・・・66

授業科目	生化学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	庄司 洋史(歯科医師免許) 清水 綾(歯科衛生士免許)			時間割	—	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	生体や歯科材料に関する理解を深めるため、物質の構造・性質・変化について学習する。特に、生命をつくる細胞の構造と遺伝子、口腔における物質の代謝と機能についての知識を習得する。						
学習到達目標	細胞の構造と遺伝子、および生体における物質の代謝と機能に関する基礎的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質の性質、変化および構造と機能等に関する研究実績を持つ講師が、その経験と知識を基に講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	物質とは	元素と原子
2	生体の構成要素	細胞の構造と細胞小器官の働き
3	〃	生体中の水の分布、酸とアルカリ(塩基)
4	〃	生体構成成分と栄養素
5	生体における化学反応	糖質・脂質・タンパク質の消化と吸収
6	糖質と脂質の代謝	糖質の代謝とエネルギーの生成
7	〃	脂質の代謝とエネルギーの生成
8	タンパク質とアミノ酸の代謝	DNAと遺伝子、タンパク質の合成 ほか
9	生体における恒常性の維持	恒常性とは、ホルモン系と自律神経系
10	歯と歯周組織の生化学	結合組織の組成と機能
11	硬組織の生化学	歯と骨の生成
12	唾液の生化学	唾液の組成と機能
13	プラークの生化学	う蝕発症機構
14	〃	歯周病発症機構
15	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能2 栄養と代謝』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	テキストを携行のこと。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	情報処理論			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	四 田 素 子			時間割	—	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	情報を有効活用するためにパソコンにおける情報の蓄積・管理・処理の方法を各種ソフトウェアを通じて理解する。						
学習到達目標	パソコンの基本操作、Microsoft Word, Excel, PowerPointの操作スキルを習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 様々な事務処理の経験を持つ講師が、その経験を活かし情報処理の基本的知識を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	PCとOfficeの基本操作	PCおよびOffice365の基本知識・基本操作
2	Word①	Wordの基本操作、文字入力、文書作成。
3	Word②	Wordでビジネス文書作成。
4	Word③	Wordで表を使った文書作成。
5	Word④	Wordで図表や画像を使った文書作成。
6	Excel①	Excelの基本操作、データ入力、編集、数式の入力
7	Excel②	Excelでの表の編集
8	Excel③④	Excelでのグラフと図形の作成
9	Excel⑤	Excel関数の利用について
10	Exccel⑥	Exccelのフィルター機能について、データ抽出並び替え
11	PowerPoint①	プレゼンテーションについて、PowerPointの基本操作
12	PowerPoint②	PowerPointスライドの作成、文字や図表の編集、画像の挿入
13	PowerPoint③	PowerPointで表示効果、スライドショーの実行
14	PowerPoint④	PowerPointの復習として演習問題を解く。
15	まとめ	各ソフトウェアの連帯活用法

使用テキスト 教材・教具	『情報リテラシー　入門編』 FOM出版		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	特になし	検定試験の概要	
備考			

授業科目	コミュニケーション論	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	小笠原　聖 幸(中学校・高等学校教諭一種) 重 橋　秀 香(コミュニケーション能力1級)	時間割	金1限 月4限	開講期	前期
選択/必修	必修　講義/実習　講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	日本語を正しく理解し語彙力を高め、患者と医療スタッフに通用する接遇マナー、コミュニケーション力を身につける。				
学習到達目標	歯科衛生士としての接遇マナー、コミュニケーション力を習得する。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医院にて患者対応・接遇マナーに携わってきた講師が、社会人・医療人として身につけるべき能力について講義する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度		
1	オリエンテーション	コミュニケーション論で学ぶこと	小笠原先生
2	文章に関する理解 ①	読解力　文法	
3	文章に関する理解 ②	読解力　文法	
4	文章に関する理解 ③	文章力　語句・漢字	
5	文章に関する理解 ④	文章力　語句・漢字	
6	文章に関する理解 ⑤	表現力　語句・漢字	
7	文章に関する理解 ⑥	表現力　語句・漢字	
8	まとめ	総まとめ	
9	接遇マナー ①	マナーの必要性、ファーストイメージアップ・身だしなみ	重橋先生
10	接遇マナー ②	社内業務・マナー、仕事の進め方	
11	接遇マナー ③	ビジネス会話の基本・敬語	
12	接遇マナー ④	電話応対マナー	
13	接遇マナー ⑤	クレーム対応など物怖じしない会話術	
14	接遇マナー ⑥	来客・接客応対マナー、訪問マナー	
15	接遇マナー ⑦	ビジネス文書の書き方	

使用テキスト 教材・教具	『さすが！と言われるビジネスマナー完全版』 株式会社高橋書店		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点	社会人として必要なスキルを取得します。実習に行く際に必ず求められる内容ですので、しっかり学びましょう。	検定試験の 概要	
備考			

授業科目	解 剖 学			時間数 (コマ数)	40 (20)	単位数	2
担当教員 (資格等)	土居原 拓 也 (理学修士・医学博士)			時間割	水1・2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	人体の構造を理解し、臨床科目の理解および実技に役立つ基礎知識を得ることを目的とする。						
学習到達目標	人体の構造を理解し、身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 専修学校や大学で実際に解剖を行っている講師が、その経験を活かし人体の構造について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1・2	序章	解剖学で学ぶこと
3・4	第1章 骨格系	概説、骨の発生、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨
5・6	第2章 筋と運動	概説、体の各部位の筋系
7・8	第3章 消化と吸収	消化と吸収の意義、消化器の構造
9・10	第4章 循環	脈管系の概要、血管系の構造、心臓、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系
11・12	第5章 神経	神経系の概要、神経系の構成、中枢神経系、脳脊髄膜、脳の血管、抹消神経系
13	第6章 呼吸	呼吸、呼吸器の構成
14・15	第7章 感覚	外皮、特殊感覚器の構造
16	第8章 排泄	排尿(泌尿器、腎臓)
17・18	第10章 内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造
19・20	第11章 生殖	生殖器、性周期

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	生理学			時間数（コマ数）	30 (15)	単位数	2
担当教員（資格等）	庄司 洋史（歯科医師免許）			時間割	—	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	生体がもつさまざまな機能がどのような仕組みで行われるかを理解することを目的とする。						
学習到達目標	人体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて生物の構造と機能等に関する研究実績を持つ講師が、その経験と知識を基に講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	細胞	細胞の基本的生理機能
2	興奮性組織	興奮伝導の特徴と活動電位の発生
3	筋	筋の種類、興奮収縮連関 ほか
4	循環	心臓の構造、刺激伝導系、心電図
5	呼吸	呼吸運動、排気量分画、肺胞におけるガス交換
6	血液	血液の成分と機能
7	〃	止血機構、血液型
8	まとめ	小テスト・復習
9	神経	神経の機能、中枢神経、末梢神経
10	〃	自律神経
11	感覚	感覚の基本的性質、口腔感覚 ほか
12	消化と吸収	胃・小腸・大腸の働き
13	排泄	排尿・排便・発汗
14	体温	体熱の生産、体温調整
15	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	臨床科目や他の基礎科目との関連を意識して、理解する。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	栄養学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	田中 洋子 (管理栄養士/健康運動指導士)			時間割	水2限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	健康で豊かな生活をするために、栄養素や食品の栄養的特徴、ライフサイクルと食の特徴、さらに生活習慣病と食について理解し、実践に役立つ知識を習得する。						
学習到達目標	食生活と栄養が人間の成長や健康にいかに深く関わっているか理解することを目標とする。 1.五大栄養素が理解できる　2.食生活と健康の関わりが理解できる						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 病床数500以上の総合病院、松山市保健所、健診機関ほか管理栄養士として20年以上の実務経験を活かし、食と人間の関わりについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	栄養の基礎知識	食生活と栄養,栄養素の消化・吸収
2	食事摂取基準	設定指標、推定エネルギー必要量、基礎代謝 各栄養素の摂取基準値
3	栄養素の働き(1)	炭水化物,たんぱく質,脂質
4	栄養素の働き(2)	ビタミン,ミネラル,水,食物繊維
5	食生活と健康	国民健康・栄養調査の結果と食生活の現状 近年の食生活の特徴と疾病構造の推移
6	食生活と健康	健康日本21(第2次),健康づくりのための食生活指針、特別用途食品 特定保健用食品、栄養機能食品、食品の表示制度
7	食生活と健康	六つの基礎食品,三色食品群,食事バランスガイド
8	ライフステージ別 栄養と調理	乳児期の栄養と調理
9	ライフステージ別 栄養と調理	幼児期・学童期・思春期の栄養と調理
10	ライフステージ別 栄養と調理	成人期・妊娠・授乳期の栄養と調理
11	ライフステージ別 栄養と調理	高齢期の食生活、咀嚼・嚥下機能の発達と低下
12	食品と栄養	食品成分表、食べ物の物性
13	生活習慣病と食(1)	肥満と食生活、メタボリックシンドロームと食生活
14	生活習慣病と食(2)	糖尿病と食生活、高血圧と食生活
15	健康教育	健康教育の進め方,方法,評価

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能2　栄養と代謝』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	資料等適宜配布する		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	組織発生学・口腔解剖学	時間数（コマ数）	45 (23)	単位数	3
担当教員（資格等）	佐藤 大輔（歯科医師免許） 庄司 洋史（歯科医師免許）	時間割	水3・4限 —	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 1年
授業科目のテーマと目的	口腔・顔面領域の解剖学および生体（口腔含む）の構成要素（細胞・組織・器官）の発生様式と機能について学習する。				
学習到達目標	口腔内治療の専門家として他科の医師、看護師以上に知識をもつ。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として各歯科治療の分野を経験し、体の構造を熟知した講師が、その経験を活かし人体の構造と機能について講義する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度		
1	口腔とは ①	口腔付近の表面、口腔前庭	庄司先生
2	口腔とは ②	固有口腔	↓
3	口腔とは ③	舌・唾液腺・咽頭	↓
4	口腔を構成する骨 ①	頭蓋骨①	↓
5	口腔を構成する骨 ②	頭蓋骨②	↓
6	口腔を構成する骨 ③	上顎骨・口蓋骨・下顎骨・舌骨	↓
7	顎関節	顎関節の機能	↓
8	表情筋・舌骨上筋	頭頂部の筋、耳介・目・鼻・口周囲の筋	↓
9	咀嚼筋	咀嚼筋群、咀嚼筋の作用の概要	↓
10	口腔付近に分布する脈管系 ①	口腔付近に分布する動脈	↓
11	口腔付近に分布する脈管系 ②	口腔付近に分布する静脈・リンパ系	↓
12	神経 ①	神経　三叉神経・上顎神経・下顎神経	↓
13	神経 ②	顔面神経・下咽神経・迷走神経・舌下神経	↓
14	神経 ③	脊髄神経・自律神経	↓
15	まとめ	口腔・顔面領域の解剖学まとめ	↓
16	細胞と組織 ①	細胞の構造・増殖と寿命	佐藤先生
17	細胞と組織 ②	組織の種類と構成	↓
18	胎児の成長と発育	生命の誕生、胎児の発育	↓
19	顔面と口腔の発生	鰓弓の形成、顔面と口腔の発生	↓
20	口腔組織の発生	口腔組織の発生	↓
21	歯の発生	蕾状期・帽状期・鐘状期	↓
22	歯の構造と機能	エナメル質・象牙質・歯髄の構造と機能	↓
23	まとめ	歯周組織の構造・機能、全8回まとめ	↓

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』 歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100％とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯牙解剖学			時間数（コマ数）	45 (23)	単位数	3
担当教員（資格等）	玉田　司（歯科医師免許）			時間割	木3・4限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士として必要な歯牙解剖学的知識の習得。						
学習到達目標	歯牙の解剖学的特徴や機能、個々の歯牙の鑑別について理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師・歯科技工士として歯牙を熟知し、歯科医療に携わる講師が、その経験を活かし歯の構造と機能について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯の形態	緒言　歯の機能や形態、左右の識別など
2	〃	永久歯の特徴（前歯）
3	〃	永久歯の特徴（臼歯）
4	〃	永久歯の特徴（乳前歯）
5	〃	永久歯の特徴（乳臼歯）、特色のある歯の形態
6	〃	歯列と咬合
7	歯と歯周組織の発生	先行歯の発生、代生歯、加生歯の発生
8	歯と歯周組織の構造と機能	エナメル質、象牙質
9	〃	歯髄、セメント質、歯根膜
10	〃	歯槽骨、歯肉および口腔粘膜、歯周組織の生理
11	歯のスケッチ	上顎前歯の形態　スケッチ
12	〃	上顎臼歯の形態　スケッチ
13	〃	下顎前歯の形態　スケッチ
14	〃	下顎臼歯の形態　スケッチ
15	〃	乳歯の形態　スケッチ
16	歯型彫刻	上顎前歯の彫刻
17	〃	上顎臼歯の彫刻
18	〃	下顎前歯の彫刻
19	〃	下顎臼歯の彫刻
20	〃	歯型彫刻の仕上げ
21	〃	〃
22	〃	〃
23	〃	〃

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	講義やスケッチ、彫刻の内容を正確に習得していくように留意すること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	口腔生理学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	浜川 知大 (歯科医師免許)			時間割	金1限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯・咀嚼・唾液分泌・味覚・口腔感覚・発声の生理について総合的に理解する。						
学習到達目標	口腔機能とそれに関する事柄についての基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として口腔機能を熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし口腔の構造と機能について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯と口腔の感覚	歯の感覚、口腔粘膜の感覚
2	味覚と嗅覚	味覚、嗅覚
3	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位、下顎の運動
4	〃	顎反射、摂食行動
5	〃	咀嚼能力、吸啜
6	まとめ	確認テスト、振り返り
7	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐にかかわる構造
8	〃	嚥下、嘔吐
9	〃	〃
10	まとめ	確認テスト、振り返り
11	発声	発声機構の概要、声の生成
12	〃	言語音の形成、歯・口腔の病態と発声
13	唾液	唾液腺、唾液の分泌機構
14	〃	唾液の性状・成分と機能、唾液と疾患
15	まとめ	全体のまとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	病理学・口腔病理学			時間数 (コマ数)	45 (23)	単位数	3
担当教員 (資格等)	足立 智子 (歯科医師免許)			時間割	月1・2限	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	疾病の原因、成り立ち、経過、転帰などを理解する。						
学習到達目標	疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師であり、大学院にて口腔顎顔面外科学の研究に携わる講師が、その経験を活かし 疾病の成り立ちについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	概論	病理学概論
2	遺伝性疾患	遺伝子病と配偶子病
3	循環障害	虚血・充血・うっ血 など
4	代謝障害	代謝障害の概念
5	退行性病変と進行性病変	萎縮と細胞死、肥大、化生
6	再生と創傷治癒	創傷の治癒形
7	炎症	五大徴候、炎症の分類
8	感染と免疫	免疫応答
9	アレルギーと免疫不全症	Ⅰ型～Ⅳ型アレルギー
10	腫瘍	腫瘍の性質
11	まとめ	前期の総復習
12	歯の発育異常	構造や位置の異常
13	歯の損傷	損傷、着色
14	う蝕	疫学、分類
15	歯髄の病態	歯髄炎の種類
16	歯周組織の病態(1)	根尖部歯周組織の病変
17	歯周組織の病態(2)	辺縁部歯周組織の病変
18	口腔粘膜の病変	ウイルス感染
19	嚢胞、腫瘍	良性、悪性、病原性、非病原性
20	顎骨の病変	骨髄炎
21	唾液腺の病変	シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍
22	奇形・加齢変化	唇顎口蓋裂、奇形症候群
23	まとめ	後期の総復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	微生物学・口腔微生物学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	亀井 隆行 (歯科医師免許)			時間割	木3限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士が行う、う蝕や歯周病などの口腔感染症の予防処置や指導、又病原微生物による汚染機械器具及び汚物の滅菌・消毒には、微生物の基礎知識が必要である。講義では、歯科診療で問題になるであろう細菌・ウイルス・原虫について総論及び各論を教授する。						
学習到達目標	微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として感染症と微生物について熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし人体と微生物に関して講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	疾病と微生物	疾病と微生物、免疫学・感染と感染症
2～4	微生物の病原性	微生物の位置づけ、細菌・ウイルス など
5～7	宿主防御機構と免疫	宿主防御機構、免疫機構、アレルギー など
8・9	口腔微生物学	口腔細菌叢、デンタルプラーク
10・11	口腔感染症	う蝕、歯内感染症、歯周病 など
12・13	化学療法	化学療法と化学療法薬、主な化学療法薬の種類と特徴 など
14	院内感染対策と滅菌・消毒	口腔外感染症と院内感染対策、滅菌・消毒 など
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	薬理学・歯科薬理学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	渡邉 真一 (薬剤師・感染制御専門薬剤師)			時間割	水1限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。						
学習到達目標	薬の作用と副作用を理解し、口腔疾患と薬、服薬指導に関する知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 薬剤師として薬物を熟知し、大学病院等での実務経験を有する講師が、その経験を活かし薬物に関する基本的知識を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	総論	イントロダクション
2	総論 1章・2章	薬物の作用、薬物動態
3	総論 3章・4章	薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因
4	総論 5章・6章	薬物の副作用・有害事象、医薬品を適用する際の注意
5	総論 7章・8章	薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品
6	各論 1章・2章	ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物
7	各論 3章・4章	中枢神経系・循環器系に作用する薬物
8	各論 5章・6章	腎臓・呼吸器系に作用する薬物
9	各論 7章・8章	消化器系・血液に作用する薬物
10	各論 9章・10章	免疫・悪性腫瘍と薬
11	各論 11章・12章	代謝性疾患治療薬、炎症と薬
12	各論 13章・14章	痛みと薬、局所麻酔薬
13	各論 15章・15章・16章	抗感染症薬、消毒に作用する薬
14	各論 17章・18章	う蝕予防薬、歯内療法薬
15	各論 19章・20章・21章	歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方医学と薬物

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科衛生士概論			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	清 水　綾 (歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	①歯科衛生士の業務内容と、それらに関わる法律について理解し、地域における歯科衛生士の役割と責任について熟知する。 ②職業人・医療従事者として必要な倫理観や素養を養う。						
学習到達目標	自分の目指す職業の特徴と責任を理解し、日頃から適切な言動がとれるよう心がける。また、自分の目標とする歯科衛生士像を明確にする。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科衛生業務に携わってきた教員が、歯科衛生士法と業務内容について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科衛生学とは	歯科医学と歯科衛生
2	歯科衛生の歴史	歯科衛生士の歴史、歯科衛生士法と歯科衛生士業務
3	歯科衛生活動のための理論	予防の概念、科学的思考
4	まとめ	小テスト①・復習
5	歯科衛生過程	歯科衛生過程の利点と活用の流れ
6	まとめ	小テスト②・復習
7	歯科衛生士と医療倫理	歯科衛生士の義務と責任
8	〃	医療倫理に関する規範とバイオエシックス
9	〃	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動
10	まとめ	小テスト③・復習
11・12	歯科衛生士と組織	歯科衛生士の活動と組織
13	海外における歯科衛生士	海外における歯科衛生士の現状
14	〃	国際保健
15	まとめ	小テスト④・復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科衛生学総論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	歯科衛生学シリーズ『歯科医療倫理学』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科臨床概論			時間数 (コマ数)	40 (20)	単位数	2
担当教員 (資格等)	西岡 信治 (歯科医師免許)			時間割	火1限 木1限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	①歯科医学や臨床への入門案内 ②要約した歯科臨床システムや診療の流れの中で、歯科衛生士の役割を自覚し、夢を描いてもらうこと ③読書術、ノート術、記憶術等、勉強方法のイメージトレーニングをワークショップを通して行う						
学習到達目標	歯科臨床システムや診療の流れを理解し、歯科衛生士としての役割を自覚する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として歯科臨床システムを熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし歯科治療の流れについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	イントロダクション	自己紹介、ノート術 他
2・3	Ⅰ編 歯科診療と歯科診療所	歯科診療とは、歯科診療所における業務 他
4・5	Ⅱ編 歯科診療の流れ ①	ライフステージと歯科診療 歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 審査・検査・前処置
6・7	Ⅱ編 歯科診療の流れ ②	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 小児歯科
8・9	Ⅱ編 歯科診療の流れ ③	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科矯正
10・11	Ⅱ編 歯科診療の流れ ④	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 口腔外科
12・13	Ⅱ編 歯科診療の流れ ⑤	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科保存
14・15	Ⅱ編 歯科診療の流れ ⑥	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯周治療
16・17	Ⅱ編 歯科診療の流れ ⑦	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科補綴
18・19	Ⅱ編 歯科診療の流れ ⑧	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 障害者歯科・高齢者歯科
20	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	『歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	新歯科衛生士教本 『歯科臨床概論 第2版』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	保存修復学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	浪瀧 文彦 (歯科医師免許)			時間割	水3・4限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科疾患、特にう蝕についての内容と処置方針の理解および歯科衛生士としての対応について学ぶ。						
学習到達目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類・症状・診断法および治療法を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として実際に歯科診療を行う講師が、その経験を活かし歯の疾患と治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯の保存療法の種類	歯の保存療法と歯科保存学、対象となる疾患
2	口腔検査	口腔検査の基礎知識と前準備、医療面接、現症の検査
3	保存修復の概要 ①	保存修復学とは
4	保存修復の概要 ②	窩洞と保存修復治療、保存修復治療の概要
5	保存修復の概要 ③	保存修復治療の準備、歯の切削、窩洞形成、 歯髄保護、保存修復法の種類
6	まとめ ①	第1回～第5回までの復習
7	直接法修復 ①	コンポジットレジン修復
8	直接法修復 ②	セメント修復
9	間接法修復 ①	インレーおよびアンレー修復
10	間接法修復 ②	ベニア修復、合着剤および接着剤
11	保存修復における 歯科衛生士の役割 ①	検査・診断時の業務、保存修復時の診療補助業務(直接法修復)
12	保存修復における 歯科衛生士の役割 ②	保存修復時の診療補助業務(間接法修復)
13	実習	抜去歯牙を用いたデモ
14	保存修復における 歯科衛生士の役割 ③	保存修復時の診療補助業務(補助手技)、器材、薬剤の保管・管理
15	まとめ ②	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『保存修復・歯内療法』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科放射線			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	藤田 陽平 (歯科医師免許)			時間割	木3・4限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科診療に必須である放射線の基礎知識を理解し、実習を通じて歯科診療補助に対応し得る能力を習得する。						
学習到達目標	放射線の生物学的影響を理解し、X線撮影の種類と適応、病変のX線所見を概説できる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として歯科放射線について熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし放射線の基礎知識について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科医療と放射線	歯科におけるX線写真と画像診断
2	〃	放射線の性質と人体への影響・防護
3	X線画像の形成	X線と画像の形成
4	歯科におけるX線検査	口内法X線撮影、パノラマX線撮影
5	〃	その他の画像検査法
6～8	口内法X線撮影と歯科衛生士	口内法X線撮影の準備
		フィルムとヘッドの位置づけ、撮影の要点
9～11	パノラマX線撮影と歯科衛生士	パノラマX線撮影の準備
		患者の誘導と位置づけ
12	写真処理と画像保存	写真処理(現像・定着)
13	〃	デジタルシステムにおける画像の扱いと管理
14	放射線治療と口腔管理	放射線治療とそれによる副作用
15	〃	放射線治療患者の口腔管理

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科放射線学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ ① (予防的歯石除去法)			時間数 (コマ数)	150 (75)	単位数	5
担当教員 (資格等)	北風 佳奈子(歯科衛生士免許) 佐藤 奈美(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科予防処置は、歯科衛生士業務の根幹となるものであり、知識と技術の両面が求められる。マネキン実習や相互実習で技術の向上を図り、その技術の裏付けとなる知識の充実に努める。						
学習到達目標	歯科予防処置業務を実施するにあたって必要な知識、技術の基本を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科予防処置の概要	付着物および沈着物の除去
2	口腔の基礎知識	正常な口腔・歯周組織・歯冠と歯根の形態・口腔機能
3	歯周病の基礎知識	歯周病とは・分類・臨床的特徴・進行プロセス・起因性因子
4	基本姿勢	基本的マネキン操作
5	基礎実習	ミラーテクニック・深針操作
6	手用スケーラー	種類と操作方法
7	基礎実習	シックルスケーラーの操作方法(把持法、固定法、腕運動)
8・9	超音波スケーラー・エアスケーラー	基礎知識
10～13	基礎実習	超音波スケーラー
14・15	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 13～23 唇側
16・17	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 33～43 唇側
18・19	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 13～23 口蓋側
20・21	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 33～43 舌側
22・23	歯面研磨・顔面清掃器	基礎知識・操作方法
24～27	相互実習	歯面研磨
28～37	相互実習	エキスプローリング～超音波スケーラ～歯面研磨
38・39	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 14～17
40・41	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 24～27
42・43	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 34～37
44・45	基礎実習	シックルスケーラーの部位別操作 44～47

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	実習が主となるので欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ ② (う蝕予防処置法)			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	佐藤 奈美(歯科衛生士免許) 北風 佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	人々の歯・口腔の健康に関する基礎を学び健康な生活を支援するために、プロフェッショナルケアの知識・技術・態度を習得する。う蝕予防処置法においては、う蝕について概要を理解し基礎的知識及び技術を習得する。						
学習到達目標	・う蝕の原因とその予防法を理解する ・う蝕予防法の基礎的技術を習得する						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度		
46	歯科予防処置論の概要	う蝕予防処置の定義・予防の概念	
47～49	う蝕予防の基礎	う蝕の基礎知識	
50～52	フッ化物の基礎	フッ化物の基礎知識	
53～59	フッ化物の応用	フッ化物の応用	・フッ化物溶液歯面塗布法
			・フッ化物ゲル歯面塗布法
			・イオン導入法
			・洗口法
			・小窩裂溝塡塞法
60	基礎実習	洗口法	
61・62	マネキン実習	小窩裂溝塡塞法	
63～65	相互実習	フッ化物ゲル歯面塗布法(綿球法・歯ブラシ法)	
66～69	相互実習	フッ化物溶液歯面塗布法(綿球法)	
70・71	相互実習	イオン導入法	
72・73	う蝕に関する検査	う蝕活動性試験	
74・75	グループ実習・評価判定	う蝕活動性試験	・RDテスト
			・デントカルトSM
			・デントカルトLB

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科保健指導論Ⅰ	時間数 (コマ数)	90 (45)	単位数	3
担当教員 (資格等)	佐藤 奈美(歯科衛生士免許) 北風 佳奈子(歯科衛生士免許)	時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年
授業科目のテーマと目的	健康と疾病の概念を理解し、人々が歯・口腔の健康を維持、増進するために必要な知識・技術・態度を習得する。				
学習到達目標	・セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアの基本となる知識、技術を習得する ・ライフステージ別の特徴とケアの目標が理解できる				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	実習	口腔清掃自習実習
2・3	実習	ブラッシング指導モデル実習(2年生の患者)
4	歯科保健指導の概要	歯科保健指導の定義
5	〃	健康の概念
6・7	〃	口腔の基礎知識
8	口腔清掃方法	口腔清掃の定義
9～11	〃	歯ブラシの基礎知識
12～17	実習	各種ブラッシング法
18～20	口腔清掃方法	補助的清掃用具
21	実習	補助的清掃用具
22～24	口腔清掃方法	歯磨剤・歯垢染色剤
25～27	分析のためのデータ	指標(口腔衛生状態・歯周疾患・う蝕)
28～35	ライフステージに対応した歯科衛生介入	対象別指導法の基礎知識・要点
36・37	相互実習	寝かせ磨き、ガーゼによる拭掃
38～45	実習	健康教育・小集団指導法(幼稚園・小学校)

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	『歯科保健指導ハンドブック』 医歯薬出版株式会社 『オーラルヘルスケア事典』 学建書院		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	習得した内容は日常生活においても実行し、自分自身の歯科保健行動のスキルアップに努めること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科診療補助論Ⅰ ①			時間数 (コマ数)	150 (75)	単位数	5
担当教員 (資格等)	清 水　綾(歯科衛生士免許) 北 風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	口腔領域の多種多様な疾患に対する高度歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。						
学習到達目標	患者への配慮を身に付け、専門性の高い知識と根拠に基づく手技を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場にて幅広く歯科診療に携わった教員が、歯科診療補助業務と患者対応について実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科診療補助の概念	歯科診療所の基礎知識
2	医療安全	医療安全とリスクマネジメント
3	歯科診療の環境	歯科診療室の設備と歯科用チェアユニットの取扱い
4	感染予防	感染の要因と感染予防の原則
5	〃	歯科医療における感染予防対策
6	まとめ	小テスト①・復習
7	滅菌と消毒	滅菌と消毒の定義・種類と特徴
8	医療廃棄物の取扱い	廃棄物の分類と分別・処理
9	患者対応	患者対応の基本と患者誘導
10	〃	特別な配慮が必要な患者対応
11	共同動作	共同動作の概念と基本のポジショニング・ライティング
12	〃	フォーハンデッドデンティストリー、器具の受け渡し
13	〃	スリーウェイシリンジテクニック、バキュームテクニック
14	まとめ	小テスト②・復習
15～18	共同動作の基本的手技	口腔内洗浄の基本的手技と共同動作

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の 留意点	欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科診療補助論Ⅰ ②			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	清 水　綾(歯科衛生士免許) 北 風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	口腔領域の多種多様な疾患に対する高度歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。						
学習到達目標	患者への配慮を身に付け、専門性の高い知識と根拠に基づく手技を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場にて幅広く歯科診療に携わった教員が、歯科診療補助業務と患者対応について実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
19・20	合着・接着の補助	合着・接着の基礎知識と歯科用セメントの種類・特徴
21～28	〃	歯科用セメントの取扱い
29	まとめ	小テスト③・復習
30・31	印象採得の基礎知識	印象採得の手順と嘔吐反射に対する対応
32	〃	印象材の種類と特徴
33	まとめ	小テスト④・復習
34～37	印象採得の基本的手技	アルジネート印象材の練和と概形印象採得
38	石膏の基礎知識	石膏の種類と用途・取扱い
39～48	印象採得・模型作製	概形印象採得とスタディモデル作製
49	まとめ	小テスト⑤・復習
50	仮封の基礎知識	仮封の種類と仮封材の所要性質
51～54	仮封の基本的手技	仮封材の取扱いと単一仮封の手技
55	ラバーダム防湿	ラバーダム防湿の基礎知識と手順
56～59	ラバーダム防湿の基本的手技	有翼型・無翼型1歯露出法
60	まとめ	小テスト⑥・復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科診療補助論Ⅰ ③			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	清 水　綾(歯科衛生士免許) 北 風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	口腔領域の多種多様な疾患に対する高度歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。						
学習到達目標	患者への配慮を身に付け、専門性の高い知識と根拠に基づく手技を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場にて幅広く歯科診療に携わった教員が、歯科診療補助業務と患者対応について実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
61	隔壁法	隔壁の目的と種類
62～65	隔壁の基本的手技	タッフルマイヤー型リテーナーとマトリックスバンドによる隔壁法
66	口腔内に用いる検査	検査の種類と目的
67～70	口腔内診査の手技	歯式の確認と記録・コンタクト圧測定
71～74	衛生材料	歯科診療で用いる衛生材料の種類と用途
75	まとめ	小テスト⑦・復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	臨床実習Ⅰ			時間数 (コマ数)	180 (90)	単位数	4
担当教員 (資格等)	―			時間割	―	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　1年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての自分の将来像を明確にする。 口腔保健の専門職として、学内で習得した知識・技能・態度を臨床の場において、実践できる能力を身につける。						
学習到達目標	①口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。 ②臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し実践する。 ③対象者の問題を総合的に把握し、理解する能力を身につける。 ④保健・医療・福祉の場において、多職種と協働する能力を身につける。 ⑤コミュニケーション能力を身につける。 ⑥自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 県内の歯科医療機関(歯科医院等)で実際に診療に携わる歯科医師・歯科衛生士が、実習を指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
Ⅰ期	Ⅰ期-①	医療機関で何が行われているかを把握し、 その中で歯科衛生士が担う役割について理解、自覚する。
		・自ら積極的に学ぶ姿勢を確立する ・医療従事者としての自覚を持つ
		・歯科衛生士の役割と業務を理解する ・感染予防を実践する
		・良好な対人関係を築く ・理想の歯科衛生士像を見出す
	Ⅰ期-②	円滑な診療を行うために、共同動作がいかに重要で 効率的に行われているかを理解する。
		学内実習で学んだ歯科診療補助を実践し、 確実な操作と適応力を養う。
		・歯科診療室の環境整備を行う ・洗浄，消毒，滅菌ができる
		・バキューム操作ができる ・ライティングができる
		・器具の受け渡しができる ・セメント練和ができる
		・今後履修する科目の予習として、指示された事柄を見学する

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	各実習施設からの実習評価表100%とする。(前期実習評価と後期実習評価の平均)		
履修上の留意点	100%出席とする。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅰ ①			時間数（コマ数）	60（30）	単位数	4
担当教員（資格等）	庄司 洋史（歯科医師免許） 清水 綾（歯科衛生士免許）			時間割	—	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	口腔の構造と特徴の理解に基づき歯科医療に携わるための知識と観察力を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	はじめに	歯科医療の現状と動向、科学的思考の重要性
2	歯科衛生士が担う役割	保健・医療・福祉におけるチームアプローチとプロフェッショナリズム
3	基礎知識	無機質と有機質、口腔内の構造
4・5	口腔内の情報をみる	画像検査（口腔内写真・エックス線写真）から得られる情報
6	〃	歯周組織と歯周組織検査の種類、そこから得られる情報
7	う蝕とは	う蝕の分類とMIに基づく歯科保存治療
8・9	〃	エナメル質の組織学的構造とエナメル質う蝕
10	〃	フッ化物の応用と再石灰化のしくみ
11・12	〃	象牙質の組織学的構造と象牙質う蝕の特徴
13	〃	セメント質の構造とセメント質う蝕の特徴
14	まとめ	小テスト・復習
15	非う蝕性硬組織疾患とは	歯の構造と歯の損耗
16	象牙質知覚過敏症	象牙質の構造と象牙質知覚過敏症の痛みのメカニズム
17	〃	知覚過敏症の原因と予防、治療薬の種類と作用
18・19	歯の欠損と治療	歯科補綴の基礎知識、クラウン・ブリッジとは

使用テキスト教材・教具			
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅰ ②			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	庄司 洋史(歯科医師免許) 清水 綾(歯科衛生士免許)			時間割	—	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 1年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	口腔の構造と特徴の理解に基づき歯科医療に携わるための知識と観察力を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
20・21	歯の欠損と治療	義歯の種類と患者の口腔内感覚
22・23	〃	インプラントと外科的治療の基礎知識
24	まとめ	小テスト・復習
25	歯科治療と放射線	放射線物理の基本的事項
26	〃	歯科におけるエックス線撮影法の種類と特徴
27	〃	放射線被曝と放射線の影響、放射線防護
28・29	〃	エックス線透過性・不透過性の分類とエックス線写真の読み方
30	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	心理学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	森岡 千穂 (専門社会調査士)			時間割	月1限 金2限	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	心理学の基本的知見を学び、知覚・学習過程および発達心理・集団心理・対人コミュニケーションに対する知識を深める。歯科衛生士として患者に医療サービスを提供する際や職場において、理論的な裏づけのある信頼醸成スキルを身につけることができる。						
学習到達目標	患者の心理を理解し、信頼関係を築くために必要な知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	□ 有 ☑ 無	【実務経験内容】					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	授業ガイダンス 見る・聞く・感じるこころ	1)概要説明 2)知覚成立の基礎 3)知覚の体制化 4)知覚の諸相
2	学ぶ・覚えるこころ	1)学習のプロセス 2)記憶のメカニズム 3)記憶の病理とゆがみ
3	やる気の心理	1)動機づけ 2)動機づけの分類 3)欲求
4	喜怒哀楽のこころ	1)感情 2)フラストレーション 3)ストレス
5	その人らしさの心理 - パーソナリティ-	1)パーソナリティの記述 2)パーソナリティの調べ方 3)パーソナリティの異常と障害
6	かしこさの心理	1)知能 2)知能の測定 3)知的障害
7	考えるこころ	1)思考 2)問題解決 3)創造性
8	発達するこころ(1)	1)「発達」を考える 2)発達段階と発達課題 3)乳幼児から児童期のこころの発達
9	発達するこころ(2)	1)青年期 2)成人期 3)高齢者
10	人と関わる心理	1)対人認知 2)帰属理論 3)対人魅力 - 好き・きらいの心理 -
11	人と集うこころ	1)集団の心理 2)リーダーシップ 3)社会的影響
12	健康なこころ	1)メンタルヘルス 2)心理臨床の対象 3)心理療法のいろいろ
13	カウンセリングのこころ	1)カウンセリングとは 2)カウンセリング・マインド 3)ロジャースの基本姿勢を取り入れた介入法
14	思いを伝え合うこころ	1)医療コミュニケーションの基礎 2)コミュニケーション・スキル 3)特殊な場面でのコミュニケーション・スキル
15	心理学の歩みと方法 まとめ	1)心理学の歴史 2)心理学の方法 3)心理学で用いる統計 4)まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『心理学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	指定されたテキストを携行すること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	英 語			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	大 嶋 美 智 (中学校・高等学校教諭一種)			時間割	水1限 木2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	将来、歯科衛生士として活躍していく中で、「もし、外国人の患者様が来院されたら」を想定し、できるだけスムーズに患者様のケアを進めることができるだけの英語の知識と会話力を楽しく身につけてもらいたい。						
学習到達目標	英語での患者対応やコミュニケーションに必要な会話力を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	□ 有 ☑ 無	【実務経験内容】					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	warming up	英語っておもしろい
2	短文がすらすら読める リスニング、文法	テキストpart Ⅰ ①小テスト(単語)リスニング
3	短文がすらすら読める リスニング、文法	テキストpart Ⅱ 単語 テキストpart Ⅰ ②小テスト(単語)リスニング
4	歯科文例集を覚えよう	実際に使える言葉
5	長文を読んでみよう リスニング、文法	テキストpart Ⅰ ③小テスト(単語)リスニング
6	英文法を思い出してみよう	テキストpart Ⅰ ④小テスト(単語)リスニング
7	英文法を思い出してみよう	テキストpart Ⅰ ⑤小テスト(単語)リスニング
8	warming up	英語ではなしてみよう
9	長文をすらすら読んでみよう 聞いてみよう	テキストpart Ⅰ ⑥小テスト(単語)リスニング
10	英文法を思い出そう	テキストpart Ⅰ ⑦小テスト(単語)リスニング
11	会話を楽しむ	英字新聞，雑誌を読もう
12	英語でカードを作ってみよう	テキストpart Ⅰ ⑧小テスト(単語)リスニング
13	英文法を思い出そう	テキストpart Ⅰ ⑨小テスト(単語)リスニング
14	会話を楽しむ	ロールプレイング
15	まとめ	試験に備えて

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科英語』 医歯薬出版株式会社 その他、必要なプリント		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	受け身ではなく、各自積極的に。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	医学の基礎知識			時間数（コマ数）	30（15）	単位数	2
担当教員（資格等）	窪田 志穂（保健師・看護師免許） 杉本 由起子（看護師免許）			時間割	水2限 月1・2・3限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	歯科治療には基礎疾患への配慮が必須である。口腔病変が全身へ与える影響や逆に全身疾患が口腔病変の原因や悪化要因となることもある。全身疾患への理解を深め、歯科領域の日常業務で遭遇する全疾患全般の基礎知識を学習する。						
学習到達目標	全身疾患に関する基礎知識を確認する。 口腔疾患と全身疾患との関連性を理解し、論述できるようにする。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 保健師および看護師としての実務経験を有する各教員が、地域保健・地域看護の実践活動を踏まえて歯科領域との関連疾患について教授する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	ガイダンス	口腔疾患と全身疾患　総論　より充実した多職種連携へむけて （窪田先生）
2	歯科領域との関連疾患	自己免疫疾患（膠原病、リウマチ、シェーグレン症候群など） （杉本先生）
3	歯科領域との関連疾患	糖尿病 （窪田先生）
4	歯科領域との関連疾患	自己免疫疾患（膠原病、リウマチ、シェーグレン症候群など） （杉本先生）
5	知っておきたい疾患	呼吸器疾患・アレルギー・アトピー性皮膚炎 （杉本先生）
6	知っておきたい疾患	呼吸器疾患・アレルギー・アトピー性皮膚炎 （杉本先生）
7	歯科領域との関連疾患	糖尿病 （窪田先生）
8	知っておきたい疾患	認知症、パーキンソン病、うつ病など （杉本先生）
9	歯科領域との関連疾患	脳血管障害、高血圧・心疾患など （窪田先生）
10	知っておきたい疾患	認知症、パーキンソン病、うつ病など （杉本先生）
11	歯科領域との関連疾患	脳血管障害、高血圧・心疾患など （窪田先生）
12	知っておきたい疾患	骨粗鬆症、腎疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患 （杉本先生）
13	知っておきたい疾患	骨粗鬆症、腎疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患 （杉本先生）
14	歯科領域との関連疾患	消化器疾患（肝疾患、逆流性食道炎など） （窪田先生）
15	歯科領域との関連疾患	消化器疾患（肝疾患、逆流性食道炎など） （窪田先生）

使用テキスト教材・教具	『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100％とする。		
履修上の留意点	テキストに沿って講義を進めるため授業にテキストを携行のこと。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯内療法学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	浪瀧 文彦 (歯科医師免許)			時間割	水3・4限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	歯の硬組織疾患が進行して、歯髄および根尖周囲組織に拡延した場合の病状の変化と、その治療法ならびに予防法について学習する。						
学習到達目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類・症状・診断法および治療法を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として実際に歯科診療を行う講師が、その経験を活かし歯髄組織の疾患と治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯内療法学の概要 ①	歯内療法学とは、歯内療法領域の主な疾患の概要と原因
2	歯内療法学の概要 ②	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状・処置
3	歯髄の保存療法	歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬、覆髄法
4	歯髄の除去療法	歯髄切断法、抜髄法
5	根管治療・根管充塡 ①	根管治療の基本概念、根管治療の術式
6	根管治療・根管充塡 ②	根管充塡、根未完成歯の根管処置
7	実習 ①	抜去歯牙を用いたデモ
8	まとめ ①	根管治療の復習
9	外科的歯内療法	外科的歯内療法
10	歯の外傷、安全対策	歯の外傷、歯内療法における安全対策
11	歯内療法における 歯科衛生士の役割 ①	検査・診療時の業務、歯髄処置の診療補助業務、器材・薬剤の管理
12	歯内療法における 歯科衛生士の役割 ②	診療補助(歯髄保存療法、生活断髄法、直接抜髄法、根管治療)
13	歯内療法における 歯科衛生士の役割 ③	診療補助(根管充塡、外科的歯内療法)、歯のホワイトニング
14	実習 ②	抜去歯牙を用いたデモ
15	まとめ ②	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『保存修復・歯内療法』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯周病学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	西岡 信治 (歯科医師免許)			時間割	火1限 木1限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士業務を行うために必要な、歯周組織に生じる疾患の種類・症状・診断法および治療法を理解する。						
学習到達目標	歯周疾患の原因と進行のメカニズム、予防と治療の目的及び理論を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として歯周疾患について熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし歯周疾患とその予防・治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯周疾患の現状と治療	歯周疾患の現状と治療
2	正常な歯周組織の構造と機能	歯周組織について
3	歯周病の分類と原因	歯周病の分類と原因
4	〃	ペリオドンタルメディシン、インプラント周囲疾患
5	歯周治療の進め方	歯周病の予防と歯周治療
6	歯周病の検査	歯周病検査
7	歯周基本治療	歯周基本治療の目的と効果
8	〃	歯周基本治療の内容と実際、薬物療法
9	歯周外科治療	歯周外科治療の目的と分類
10	〃	種々の歯周外科治療
11	口腔機能回復	歯周治療における口腔機能回復治療
12	メンテナンス	メンテナンスの重要性とその意義
13	歯周治療における歯科衛生士の役割	歯周治療の進め方、スケーリング・ルートプレーニング
14	〃	歯周外科治療の補助
15	〃	メインテナンス、SPT

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科補綴学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	佐々木　正和 (歯科医師免許)			時間割	木1・2限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	補綴の重要性を理解し、臨床現場において活躍できる人材を育成する。						
学習到達目標	歯質欠損に対する歯冠修復と、歯列の一部あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として実際に歯科診療を行う講師が、その経験を活かし補綴物の種類や製作の流れについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科補綴の概要	歯列弓の形態とその対合関係、基準平面
2	顎口腔系の機能	咬合様式と顎運動
3	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	歯の欠損に伴う口腔内の変化
4	固定性補綴装置 ①	可撤性補綴装置(全部床義歯)
5	固定性補綴装置 ②	可撤性補綴装置(部分床義歯・特殊な義歯)
6	補綴歯科治療における検査・診断 ①	クラウン・ブリッジ治療の実際
7	補綴歯科治療における検査・診断 ②	有床義歯治療の実際
8	補綴歯科治療における検査・診断 ③	インプラント治療の実際
9・10	補綴歯科治療に用いられる器材	切削・研磨用の器材、印象採得用の器材、咬合採得用の器材
11	補綴歯科治療における歯科技工	クラウン・ブリッジの製作、有床義歯の製作、補綴装置の補修
12～14	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割	検査、診断時の業務 ・治療時の業務 ・患者指導 ・機材の管理
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科補綴学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	口腔外科学			時間数 (コマ数)	40 (20)	単位数	2
担当教員 (資格等)	浜川 知大 (歯科医師免許)			時間割	火1・2限 金1限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	口腔領域疾患の基礎ならびに観血処置に必要な麻酔の概要を学び、全身状態の把握ができる知識を習得し歯科衛生士としての職務に役立たせる能力を身につける。						
学習到達目標	顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として実際に歯科診療を行う講師が、その経験を活かし口腔領域の疾患と治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、有病者歯科治療
2	顎口腔領域の先天異常と発育異常	歯の発育異常、口腔軟組織の先天異常と発育異常
3	〃	口唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と発育異常
4	損傷および機能障害	外傷、顎骨骨折、顎関節疾患
5	〃	〃
6	口腔粘膜の病変	水疱形成・紅斑およびびらん・潰瘍・白斑・色素沈着
7	〃	粘膜萎縮・口腔乾燥・出欠および貧血・その他の異常
8	化膿性炎症疾患	歯周組織・顎骨・顎骨周囲組織の炎症
9	〃	〃
10	嚢胞性疾患	顎骨に発生する嚢胞、軟組織に発生する嚢胞
11	〃	〃
12	腫瘍および腫瘍類似疾患	腫瘍の分類、歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍、腫瘍類似疾患
13	〃	〃
14	唾液腺疾患	炎症性疾患、唾石症、腫瘍性疾患
15	〃	〃
16	神経疾患・症候群	神経痛、神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群
17	〃	〃
18	口腔外科診療の実際	創傷処置、止血・縫合処置、口腔外科小手術
19	歯科治療と歯科麻酔	歯科麻酔と患者管理、局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔
20	まとめ	全体のまとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	小児歯科学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	渡邊 正知 (歯科医師免許)			時間割	木1・2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	小児の心身の発育を理解し、学生が将来母親になったとき、育児の手助けになるような保育歯科学をベースにした講義を目指している。また、国家試験に合格できるよう過去の問題も取り入れる。						
学習到達目標	歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療に関する知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として小児歯科治療に携わる講師が、その経験を活かし小児の特徴と歯科治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	小児歯科学概論	小児歯科学とは
2	顔面頭蓋の発育	顔面頭蓋の発育の特徴 ほか
3	歯の発育と異常	乳歯・幼若永久歯の特徴、歯の形成 ほか
4	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育段階、歯列・咬合の異常 ほか
5	歯の発育と異常	乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕 ほか
6	小児の歯科疾患	小児にみられるう蝕 ほか
7	小児の軟組織疾患	小児の軟組織の異常と疾患、ビデオの視聴
8	小児歯科診療	小児期の特徴と歯科的問題点、小児歯科診療体系の流れ
9	患児の対応法	患児の診察と必要事項
10	小児歯科における診療補助	小児歯科における診療補助の原則
11	診療補助	診査、修復、歯内療法
12	診療補助	外科的処置、咬合誘導
13	ビデオの視聴	子育ては歯育て、子どもの歯科診療の実際など
14	定期検診(リコール) 障害児の歯科治療	リコールの管理、障害児における歯科的対応
15	まとめ	今まで見られなかったビデオの視聴、テストにむけて総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『小児歯科学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科矯正学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	藤田 和久 (歯科医師免許)			時間割	火1・2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	器具、器材、材料等の写真や実物を示し理解を深める。 治療経過や流れを理解するスライドを見せる。 歯科矯正用語の理解と矯正診査の実際を体験。						
学習到達目標	歯科衛生士に必要な基礎的な歯科矯正の知識を習得する。 歯科矯正の目的と治療経過を認識して、的確な診療補助ができるようにする。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として歯科矯正治療および歯科医療に幅広く携わる講師が、その経験を活かし歯科矯正について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	矯正歯科治療の概要	歯科矯正学と矯正歯科治療の目的、矯正歯科治療の需要と必要性
2	成長発育	体、頭蓋および顎顔面、歯・歯列の成長発育
3～5	正常咬合と不正咬合	正常咬合、不正咬合、不正咬合の分類・原因・予防
6	矯正歯科診断	矯正歯科治療における診断、 矯正歯科診断に必要な検査、症例分析
7～9	矯正歯科治療と“力” 矯正力・顎整形力・保定	歯の移動と固定・組織反応、矯正力・顎整形力、保定
10～12	矯正装置	可撤式矯正装置、固定式矯正装置 ほか
13	矯正歯科治療の実際	口腔顎顔面の形成異常と変形、 健康保険が適用される矯正歯科治療
14・15	矯正歯科臨床における 歯科衛生士の役割	矯正歯科診療所の業務、 矯正歯科患者と口腔保健管理、口腔筋機能療法

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科矯正学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	高齢者歯科			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	尾崎 忠克 (歯科医師免許)			時間割	木3・4限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	高齢社会においての歯科衛生士の役割						
学習到達目標	高齢者診療に対しての必要な知識を習得する。 診療所から介護施設まで歯科衛生士に必要とされる能力を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として診療所や施設の高齢者に対し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし高齢者への歯科治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	序章 高齢者をとりまく社会と環境	高齢者歯科と歯科衛生士の役割 ほか
2	加齢による 身体的・精神的変化と疾患	加齢に伴う身体的機能の変化
3	〃	高齢者の精神・心理的変化、高齢者に多い全身疾患・障害
4	〃	高齢者に多い口腔疾患
5	高齢者の状態の把握	高齢者の生活機能の評価、高齢者歯科と臨床検査
6	〃	高齢者の栄養状態、高齢者の薬剤服用
7	口腔のケア	高齢者に対する口腔のケア
8	〃	有病高齢者への口腔のケア
9	〃	要介護高齢者への口腔のケア
10	摂食嚥下リハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの概要 ほか
11	〃	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション ほか
12	高齢者に関わる医療と介護	在宅訪問診療の概要
13	〃	歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要
14	〃	かかりつけ歯科の役割、訪問看護と歯科の役割
15	高齢者歯科における 歯科衛生過程	歯科衛生過程の概要、事例

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『高齢者歯科学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	障害者歯科			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	薦田 浩詞 (歯科医師免許)			時間割	木3・4限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	ノーマライゼーションの理念に基づき、歯科衛生士として必要な障害者歯科医療についての基礎的知識の習得、高齢者歯科及び歯科疾患と全身への影響を理解することを目的とする。						
学習到達目標	歯科衛生業務を行うために必要な障害者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として様々な患者に対し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし障害者への理解と歯科治療について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	障害者の概念	障害とは、障害の分類 ほか
2	障害者の歯科診療	障害者歯科の特質、ライフサイクルと障害歯科 ほか
3	障害の種類と歯科的特徴	精神発達・心理的発達と行動障害 ほか
4	障害者と薬剤	歯科治療時に配慮すべき疾病・症候群
5	障害者歯科における歯科衛生士の役割	障害者に対する基本的対応
6	障害者の歯科診療と歯科診療補助 ①	基本的な流れと対応 ほか
7	障害者の歯科診療と歯科診療補助 ②	障害別の対応 ほか
8	障害者の歯科診療と歯科診療補助 ③	障害者の口腔保健管理
9	障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 ①	障害別
10	障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 ②	機能面への歯科保健指導・連携
11	障害者の歯科医療	保健施設における歯科衛生士の役割
12	訪問歯科診療 ①	概要
13	訪問歯科診療 ②	実際
14	愛媛県口腔保健センター業務について	障害者の歯科診療と補助及び訪問診療
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『障害者歯科学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	『スペシャルニーズデンティストリーハンドブック』 東京都立心身障害者口腔保健センター作製		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科予防処置論Ⅱ （予防的歯石除去法）	時間数 （コマ数）	60 (30)	単位数	2
担当教員 （資格等）	北風　佳奈子（歯科衛生士免許） 佐藤　奈美（歯科衛生士免許）	時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修　講義/実習　実習	履修対象者 （学科・学年）	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	人々の歯・口腔の健康に関する基礎を学び健康な生活を支援するため、プロフェッショナルケアの知識・技術・態度を習得する。特にマネキン・相互実習により手技の熟練を十分に図り、その手技の裏づけとなる知識の充実に努める。ヒトに対する配慮や心遣いを学ぶ。				
学習到達目標	歯科予防処置業務において、実践できるだけの専門的知識と技術を習得する。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1～20	相互実習	シックルスケーラーによるスケーリング（部位別）
21・22	基礎実習	キュレットスケーラーの操作方法（把持法、固定法、腕運動）
23～28	基礎実習	キュレットスケーラーの部位別操作
29・30	基礎実習	手用スケーラーのシャープニング

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』　医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』　医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法・基準	学科試験100％とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点	実技習得は相互実習が主となるので、欠席した場合の補講が困難となることを理解の上、臨むこと。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科保健指導論Ⅱ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	佐藤　奈美(歯科衛生士免許) 北風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	個人や集団を対象とした歯科保健指導ができるようになるために、基礎知識・技術を理解し、計画立案に基づき実施できる力を習得する。						
学習到達目標	・歯科保健教育活動を理解し、集団を対象とした歯科保健教育ができる ・ライフステージ別の特徴を理解し、個人を対象とした歯科保健指導をすることができる						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	対象者別保健指導 (成人・個人)	説明・準備
2・3	〃	1年生への指導
4～24	対象者別保健指導 (小集団)	幼稚園・小学校での歯磨き指導臨地実習に備えてグループワーク
		集団指導計画書作成
		集団指導原稿の作成
		媒体作成
		役割別に練習
25～28	対象者別歯科保健指導 (高齢者・個人)	高齢者施設での口腔ケア臨地実習に備えて準備
29・30	相互実習	口腔体操・口腔周囲のマッサージ指導練習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	最新歯科衛生士教本『口腔保健管理』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の 留意点	グループの中で自分の役割を果たし協調して物事を進めていくことの意義を学ぶ。	検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科診療補助論Ⅱ	時間数（コマ数）	30（15）	単位数	1
担当教員（資格等）	足立 智子（歯科医師免許） 清水 綾/北風 佳奈子（歯科衛生士免許）	時間割	月1・2限 —	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 2年
授業科目のテーマと目的	口腔領域の多様な疾患に対する高度歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。臨床分野の各処置における器材のトレーセッティングを習熟する。口腔外科の基本小手術を理解し、器材セッティングを習熟する。				
学習到達目標	患者の心身の状態を理解し、専門性の高い知識に基づく歯科診療補助を習得する。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科口腔外科にて最先端の外科治療を行う歯科医師と、歯科衛生士としての実務経験を有する教員が実習を行う。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	口腔外科治療時の歯科診療補助	感染症対策と基礎知識
2	〃	急変時の対応と病態
3	〃	口腔外科小手術の実際 1
4	〃	口腔外科小手術の実際 2
5	〃	手術器具の扱い方
6	〃	有病者に対する知識
7	〃	切開、縫合の手順実習
8	〃	処置後の注意事項の理解
9	ホワイトニング	ホワイトニングの種類と手順・使用器具
10	歯肉圧排	歯肉圧排の目的と手順
11	まとめ	小テスト①・復習
12・13	歯内療法時の歯科診療補助	歯髄疾患処置の診療補助
14	〃	感染根管治療の診療補助
15	まとめ	小テスト②・復習

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』 医歯薬出版株式会社 『器材準備マニュアル 第7版』 一般財団法人口腔保健協会		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点	欠席した場合、補講を受けなければ次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	看護学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	安部 幸代 (看護師免許)			時間割	金2限 木1限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	①医療チームの一員として歯科衛生士の役割を果たすために必要な看護学の基礎を学ぶ。 ②歯科衛生士として実践する基礎看護技術について学ぶ。						
学習到達目標	歯科衛生士に必要な看護の知識と技術を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 看護師として医療に携わる講師が、看護の基礎を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	病院における歯科衛生士の役割・看護概念	歯科衛生士の活動の場、医療チームの中の歯科衛生士の役割 看護の歴史、看護とは
2	歯科衛生士が知っておくべき看護技術	バイタルサインについて、バイタルサインの測定方法(演習)
3	〃	コミュニケーション、患者への支援、患者の安全と安楽
4	〃	摂食、与薬
5	〃	罨法、吸引・吸入
6	歯科衛生士に必要な看護実務	患者の観察および記録、病院外来での業務
7	〃	入院を要する患者の看護、口腔ケア
8	〃	救急時の看護
9	〃	洗浄・消毒・滅菌
10	〃	感染対策
11	〃	医療安全対策
12	地域医療活動における歯科衛生士の役割	地域社会における看護のあり方
13	〃	保健・医療・福祉チームとの連携
14	〃	在宅医療における歯科衛生士の役割
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト教材・教具	『歯科衛生士のための看護学大意 第4版』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献	講義中に提示する。		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	テキストによる事前学習をして出席すること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	介護技術論・ 介護技術演習	時間数 (コマ数)	56(28) 42(21)	単位数	3 2
担当教員 (資格等)	井川 義伸 他7名 (介護福祉士・介護支援専門員)	時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義・演習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年
授業科目のテーマと目的	高齢者、障害者の口腔健康管理の指導を行なうと共に、介護、医療の現場における、チームの一員としての役目を自覚し、介護の任務を同時に遂行出来る職業人を育てる。介護の専門的知識、技術の習得をする事で、ケアの専門職の資格を得る。				
学習到達目標	介護職員初任者研修の施設実習にむけて、介護の知識と技術を身に付ける。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 専門職として介護に深く関わり、幅広い知識と経験を持つ講師が、その経験を活かし講義と実習を担当する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1～4	科目1	職務の理解
5～10	科目2	介護における尊厳の保持・自立支援
11～14	科目3	介護の基本
15～20	科目4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携
21～24	科目5	介護におけるコミュニケーション技術
25～28	科目6	老化の理解
29～32	科目7	認知症の理解
33・34	科目8	障害の理解
35～66	科目9	こころとからだのしくみと生活支援技術
67～70	科目10	振り返り

使用テキスト 教材・教具	『二訂 介護職員初任者研修テキスト 第2版』(第1巻～第3巻) 一般財団法人長寿社会開発センター		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	科目ごとに試験またはレポート提出にて知識・技術習得の確認を行う。 合格点は60点以上とする。		
履修上の留意点	講義・演習・実習の規定時間すべて出席し、知識・技術を習得した者の中で、評価基準を満たした者を研修修了者とする。	検定試験の概要	介護職員初任者研修
備考			

授業科目	臨床実習Ⅱ			時間数 (コマ数)	315 (158)	単位数	7
担当教員 (資格等)	―			時間割	―	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての自分の将来像を明確にする。 口腔保健の専門職として、学内で習得した知識・技能・態度を臨床の場において、実践できる能力を身につける。						
学習到達目標	①口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。 ②臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し実践する。 ③対象者の問題を総合的に把握し、理解する能力を身につける。 ④保健・医療・福祉の場において、多職種と協働する能力を身につける。 ⑤コミュニケーション能力を身につける。 ⑥自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 県内の歯科医療機関(歯科医院等)で実際に診療に携わる歯科医師・歯科衛生士が、実習を指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
Ⅱ期	Ⅱ期-①	学内で習得した知識、技術、態度を 臨床の場において総合的に理解し実践する。
		・患者の主訴を把握し治療の流れを理解する ・症例に応じた器材の準備ができる
		・治療の流れを理解した上で歯科診療補助を行う ・歯式や歯周検査等の記入ができる
		・印象材の練和ができる ・エックス線撮影時の補助ができる
	Ⅱ期-②, ③	歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の実際を学び、 歯科衛生士業務の基礎的能力を養う。
		・各処置の適応症, 目的, 術式, 患者説明を理解する ・指示された方法でブラッシング指導を行う
		・指示された方法でう蝕予防処置を行う ・歯科保健指導, 歯科予防処置後の歯科衛生士
		業務記録票の記入ができる ・対象者に合わせた適切な患者対応ができる

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	各実習施設からの実習評価表100%とする。		
履修上の留意点	100%出席とする。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅰ（介護施設実習）			時間数 （コマ数）	13(7) 32(16)	単位数	1
担当教員 （資格等）	―			時間割	―	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 （学科・学年）	歯科衛生学科　2年		
授業科目のテーマと目的	多様化するニーズに対応できる歯科衛生士になるために、多職種と連携しチーム医療を行う際必要な知識と技術を身につける。歯科衛生業務を習得するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識・技術および態度を身につける。						
学習到達目標	①対象者のニーズに応じた対応ができる ②多職種と連携して必要なサービスができる ③対象者に応じた口腔健康管理指導ができる ④集団を対象に健康教育が実践できる ⑤現場に応じた業務記録の記述ができる						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 介護施設実習においては介護の各サービスに携わる専門職より実習指導を受ける。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
Ⅰ期	歯磨き指導　①・②	小学校での歯磨き指導
	③・④	保育所、幼稚園での歯磨き指導　第1回
	⑤・⑥	保育所、幼稚園での歯磨き指導　第2回
	⑦・⑧	救護施設での口腔健康管理
	介護施設実習　①～⑯	介護実習により利用者とのコミュニケーション・ 日常生活の援助方法・施設内カンファレンスを学ぶ
		訪問介護同行訪問により介護技術の実践・ ケアプランの把握・記録方法等を学ぶ
		在宅サービス提供現場にて、送迎・レクリエーション・ 入浴介助・移動介助・コミュニケーションを学ぶ

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	各実習施設からの評価表100%とする。		
履修上の留意点	100%出席とする。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅱ ①			時間数（コマ数）	90 (45)	単位数	6
担当教員（資格等）	庄司 洋史（歯科医師免許） 清水 綾（歯科衛生士免許）			時間割	—	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	様々な疾患の原因や発生・進行・治癒について理解し、安全かつ的確な歯科医療を提供する知識と思考力を身につける。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	アレルギーと歯科治療	免疫機構とアレルギー
2・3	〃	アレルギーの種類と特徴、口腔内所見、歯科治療との関連
4	まとめ	小テスト・復習
5	栄養素と口腔	生体構成成分と栄養素
6	〃	口腔に関わるビタミンの作用と欠乏症
7	消化・吸収と口腔	摂食嚥下の流れ、消化管
8	〃	消化液に含まれる消化酵素とその作用
9	〃	ホルモンの種類とその作用
10	歯科治療と医薬品	医薬品の保存と取扱い
11	〃	薬物の適用方法とその利点・欠点
12	〃	薬物の作用と用量、薬物動態
13・14	〃	歯科医療における薬物療法と使用薬物
15	〃	口腔に現れる薬物の副作用
16	まとめ	小テスト・復習
17	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	顔面の発生と裂奇形

使用テキスト教材・教具			
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅱ ②			時間数（コマ数）		単位数	
担当教員（資格等）	庄司 洋史（歯科医師免許） 清水 綾（歯科衛生士免許）			時間割	―	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	様々な疾患の原因や発生・進行・治癒について理解し、安全かつ的確な歯科医療を提供する知識と思考力を身につける。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					

コマ割		
18	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	口蓋裂・口唇裂とその治療
19・20	〃	小帯・舌の異常による歯列不正や歯科疾患のリスク、口腔機能障害
21	口腔病変を発現する全身疾患と主な症状	歯および顎骨に症状を発現する疾患
22	〃	口腔粘膜・唾液腺に症状を発現する疾患
23	〃	口腔粘膜の病変と疾患
24	まとめ	小テスト・復習
25～27	口腔領域に関係する脳神経	頭蓋骨と脳神経
28	〃	口腔領域を支配する神経の働き
29	〃	口腔領域の神経疾患
30	〃	口腔領域を支配する神経と局所麻酔
31	まとめ	小テスト・復習
32	細胞の変化と歯科治療	退行性病変と進行性病変
33	〃	肉芽組織の構成
34	〃	創傷治癒
35	微生物と歯科疾患	微生物の病原性の理解

使用テキスト教材・教具			
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅱ ③			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	庄司 洋史 (歯科医師免許) 清水 綾 (歯科衛生士免許)			時間割	—	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 2年		
授業科目のテーマと目的							
学習到達目標							
担当教員の授業に関わる実務経験	□ 有 □ 無	【実務経験内容】					

コマ割		
36	微生物と歯科疾患	う蝕原性細菌とう蝕の進行
37・38	〃	歯周病原性細菌と歯周疾患の分類
39	まとめ	小テスト・復習
40・41	保存修復治療の理解	歯の切削と使用機器・器具
42・43	〃	直接修復と歯科材料
44	〃	間接修復と歯科材料
45	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	口腔衛生学			時間数（コマ数）	45 (23)	単位数	3
担当教員（資格等）	川上 三紀（歯科衛生士免許）			時間割	火3限	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	口腔衛生学は社会歯科学系に属する学問として位置づけられており、「歯・口腔の健康と予防」では口腔衛生の総論として、基礎知識の整理、予防歯科の概念と歯科疾患の予防などのライフステージごとの口腔保健管理について学ぶ。						
学習到達目標	歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 保健所で住民等に歯と口腔の健康について指導を行っていた講師が、その経験を活かし講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	総論	歯・口腔の健康と予防
2	〃	歯・口腔の付着物・沈着物
3	口腔清掃	口腔清掃の意義　口腔清掃法
4	〃	人工清掃法の分類と用具
5	〃	不適切な口腔清掃による為害作用
6	〃	歯磨剤と洗口液・洗口剤
7	歯科疾患の疫学	う蝕の疫学
8	〃	歯周疾患の疫学、その他の疫学
9	う蝕の予防	う蝕発生のメカニズム
10	〃	う蝕活動性
11	〃	う蝕の予防法
12	フッ化物によるう蝕予防	わが国のフッ化物応用
13	〃	フッ素の代謝
14	〃	フッ化物の毒性、フッ化物応用によるう蝕予防法
15	〃	ライフステージに応じたフッ化物応用法
16	歯周疾患の予防	歯周疾患の症状と分類・発症機序
17	〃	歯周疾患の全身に与える影響
18	〃	歯周疾患の予防手段と処置
19	その他の疾患・異常の予防	口内炎・口腔癌
20	〃	不正咬合・顎関節症・歯の形成不全
21	〃	口臭症・口腔乾燥症
22	ライフステージごとの口腔保健管理	口腔保健管理の目的　母子口腔保健
23	〃	小児期・成人期・老年期の口腔保健

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科保健統計学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	藤田 陽平 (歯科医師免許)			時間割	木3・4限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	現代における高度な情報化社会において、さまざまな保健情報を取捨選択してうまく活用し、科学的な思考で歯科衛生活動が展開できる歯科衛生士を目指し、統計理論だけでなく具体的な統計学的解析方法を学ぶ。						
学習到達目標	個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するため、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として保健情報を熟知し歯科診療を行う講師が、その経験を活かし保健情報と衛生統計について講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	保健情報と保健統計	保健情報と保健統計 －EBMとは－
2	〃	〃
3	保健情報と疫学	疫学総論
4	〃	〃
5	歯科疾患の指数	数量化と指数、う蝕の指数、歯科疾患の指数 ほか
6	〃	〃
7	保健情報の分析手順	保健情報の収集、調査 ほか
8	〃	〃
9	保健統計の方法	データの特性、記述統計 ほか
10	〃	〃
11	保健情報の分析演習	解析と検定の演習 ほか
12	〃	〃
13	情報の保護と倫理	情報社会の特性と問題点、情報の開示、個人情報の保護 ほか
14	〃	〃
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	最新歯科衛生士教本『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	衛生学・公衆衛生学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	庄司 洋史 (歯科医師免許)			時間割	—	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	衛生学・公衆衛生学を一連のものとしてとらえ、「健康を左右する環境」では健康と予防医学の概念及び人間を取り巻く自然的・社会的要因を健康との関係について学び、「健康に関わる地域の役割」では集団を対象とした疾病予防と健康増進について行政の面から捉え地域保健活動について学ぶ。						
学習到達目標	生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策についての基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科医師として地域保健活動に関わる講師が、その経験を活かし健康と社会のしくみについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	人口	衛生学・公衆衛生学とは 人口の動向、人口動態統計、生命表
2	健康と環境①	環境の概念、空気・水と健康、放射線と健康
3	健康と環境②	住居・衣類と健康、地球環境と健康、公害と健康、廃棄物処理
4	感染症	感染症の成り立ち、感染症の予防、主な感染症の動向
5	食品と健康	食品保健、栄養と健康
6	復習	振り返り
7	地域保健・公衆衛生 ①	地域社会と地域保健の概念・組織、地域保健の新たな概念
8	地域保健・公衆衛生 ②	地域保健活動の進め方、健康づくり対策と地域歯科保健
9	母子保健	母子保健の目的および概要、母子保健、小児保健　ほか
10	学校保健	学校保健の意義および概要、学校保健の活動と組織　ほか
11	成人・老人保健	成人保健の意義と特徴、老人(高齢者)保健の意義　ほか
12	産業保健	産業保健の概念、職業性疾病　ほか
13	精神保健	精神保健とは、精神衛生から精神保健へ　ほか
14	災害時の歯科保健	災害時における保健医療対策　ほか
15	復習	振り返り

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	衛生行政・社会福祉			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	田 中 顕 悟 (社会福祉士)			時間割	木1・2限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	社会保障制度と衛生行政の関係を理解し、歯科衛生士法等衛生関係法規について学び、衛生行政の組織・制度の現況や課題並びに今後の展望について検討する。						
学習到達目標	歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 社会福祉士として衛生行政に携わってきた講師が、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する知識を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	衛生行政	目的・沿革・組織
2	衛生関係法 ①	法制概論・歯科衛生士法
3	衛生関係法 ②	その他の医療関係者身分法規・医療薬事関連法規
4	衛生関係法 ③	地域保健関連法規
5	保健医療の動向	厚生統計・受療状況・医療施設・医療従事者
6	社会保障制度	社会保険制度・社会保険の目標と機能
7	社会保険 ①	医療保険・年金保険・労働保険
8	社会保険 ②	介護保険
9	社会福祉について	理念、担い手など
10	社会福祉の歴史についてⅠ	社会福祉の前史
11	社会福祉の歴史についてⅡ	今日に至る社会福祉制度
12	生活保護制度について	生活保護制度の基本原理など
13	児童福祉について	児童と家庭の福祉制度と法
14	障害者福祉について	障害者の福祉制度と法
15	高齢者福祉について	高齢者の福祉制度

使用テキスト 教材・教具	『歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第10版』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	他学科との関係部分が多いので総合的に理解する。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科予防処置論Ⅲ （予防的歯石除去法）	時間数 （コマ数）	45 (23)	単位数	1
担当教員 （資格等）	北風　佳奈子（歯科衛生士免許） 佐藤　奈美（歯科衛生士免許）	時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修　講義/実習　実習	履修対象者 （学科・学年）	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	人々の歯・口腔の健康に関する基礎を学び健康な生活を支援するため、プロフェッショナルケアの知識・技術・態度を習得する。特にマネキン・相互実習により手技の熟練を十分に図り、その手技の裏づけとなる知識の充実に努める。ヒトに対する配慮や心遣いを学ぶ。				
学習到達目標	対象者に合わせた歯科予防処置業務ができる。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1～7	基礎実習	キュレットスケーラーの部位別操作・訓練・復習・総復習
8～23	相互実習	プロービング
		超音波スケーリング
		手用スケーリング
		歯面研磨の応用

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法・基準	学科試験100％とする。（前期試験と後期試験の平均）		
履修上の留意点	実技習得は相互実習が主となるので、欠席した場合に補講が困難となることを理解の上、臨むこと。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科保健指導論Ⅲ			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	1
担当教員 (資格等)	佐藤　奈美(歯科衛生士免許) 北風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	医療面接の技術を習得し、対象別・症例別歯科保健指導を実施する力を習得する。						
学習到達目標	歯科衛生過程に基づいた情報収集・ケア計画立案を行い、対象者に合わせた指導ができる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として歯科医療現場での実務経験を有する教員が、実習形式にて指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1・2	禁煙支援	禁煙ステージとサポート
3	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要
4	グループワーク	歯科衛生過程の考え方
5	歯科衛生過程の6つの構成要素	①歯科衛生アセスメント
6		②歯科衛生診断
7		③歯科衛生計画立案
8		④歯科衛生介入
9		⑤歯科衛生評価 ⑥書面化
10～15	相互実習	歯科衛生過程実習

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献	『よくわかる歯科衛生過程』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	グループの中で自分の役割を果たし協調して物事を進めていくことの意義を学ぶ。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	訪問歯科保健指導			時間数 (コマ数)	45 (23)	単位数	3
担当教員 (資格等)	清水　綾 (歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義・演習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	在宅療養者への理解を深め訪問歯科保健指導の必要性を考える。						
学習到達目標	口腔衛生管理の知識と技術を習得し、対象者に合わせた口腔衛生管理を実施することができる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 口腔健康管理に携わった教員が、口腔衛生管理の基礎から対象者に合わせた対応までを指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科医師・ 歯科衛生士の役割	いま“口腔の専門家”として求められていること
2	口腔衛生管理とは	口腔衛生管理の定義と考え方
3・4	演習	口腔衛生管理の実践①
5	まとめ	小テスト・復習
6	対象者の全身状態の把握	要介護者・有病者の口腔管理
7・8	〃	専門的口腔衛生管理に影響を与える全身疾患
9・10	〃	専門的口腔衛生管理における全身への対応
11・12	患者の口腔内状況と 評価方法	口腔の評価を行う際の注意点
13	まとめ	小テスト・復習
14	専門的口腔衛生管理	水を使わない口腔衛生管理の手技
15	〃	症状に対応した専門的口腔衛生管理の手技
16・17	演習	口腔衛生管理の実践②
18	まとめ	小テスト・復習
19・20	多職種との連携	周術期口腔機能管理
21	〃	認知症患者への口腔衛生管理
22	歯科医療の将来展望	歯科医師・歯科衛生士の役割の変化と口腔管理
23	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト 教材・教具	『超高齢社会のための新編 専門的口腔ケア』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	新編『5分でできる口腔ケア』 医歯薬出版株式会社		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点	超高齢化社会における歯科衛生士業務の実情について情報収集に努める。	検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科診療補助論Ⅲ			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	1
担当教員 (資格等)	清水　綾(歯科衛生士免許) 北風　佳奈子(歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	口腔領域の多種多様な疾患に対する高度歯科医療に対応するため、専門性の高い歯科診療補助業務の基礎的理論と技能、態度を理解する。						
学習到達目標	患者の全身疾患や心身の状態を理解し、専門性の高い知識に基づく歯科診療補助を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として、歯科医療現場で多種多様な歯科診療に携わった教員が実習を行う。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	補綴治療時の診療補助	クラウン・ブリッジ治療の手順と診療補助
2～5	〃	暫間被覆冠製作の手技
6	〃	義歯製作の手順と診療補助
7	〃	インプラント手術の手順と診療補助
8	まとめ	小テスト①・復習
9	矯正治療時の診療補助	矯正治療の流れと使用器材
10	まとめ	小テスト②・復習
11	歯科領域に必要な臨床検査	生体検査・検体検査
12	〃	口腔領域の検査
13・14	周術期における歯科診療補助	周術期における口腔健康管理
15	まとめ	小テスト③・復習

使用テキスト教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科診療補助論』医歯薬出版株式会社		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。(前期試験と後期試験の平均)		
履修上の留意点	歯科衛生士として必要な最新の情報を、文献等でも収集し習得すること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科材料学			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	清水　綾 (歯科衛生士免許)			時間割	ー	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療において必須である歯科材料を適切に管理・使用するため、各種材料の安全性や特性、組成、取扱いについて理解する。						
学習到達目標	歯科材料を用いての歯科診療の補助、歯科予防処置を行うために必要な、歯科材料の基礎知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として、歯科医療現場にて多種多様な歯科診療に関わった教員が、歯科材料の基礎知識と取扱いについて講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	印象材	印象材の種類・組成・特徴
2	模型用材料	石膏の種類・用途・一般的性質
3	合着材・接着材	合着材と接着性レジンセメントの種類・用途・一般的性質
4	成形修復材	成形修復材の種類・組成・特徴
5	まとめ	小テスト・復習
6	仮封材・仮着材	仮封材と仮着材の種類・用途
7	ワックス	ワックスの種類・用途・一般的性質
8	金属	金属の種類と用途
9	セラミックス	歯冠修復用セラミックスの種類と性質
10	まとめ	小テスト・復習
11	小児歯科・保存歯科にかかわる材料	乳歯用既製金属冠・クラウンフォーム　ほか
12	ホワイトニング剤	ホワイトニングの種類と使用薬剤
13	歯科矯正にかかわる材料	エラスティックス・アーチワイヤー・コイルスプリング　ほか
14	歯科補綴にかかわる材料	義歯・ブリッジ・インプラントに使用する材料とCAD/CAM用材料
15	まとめ	小テスト・復習

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『歯科材料』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	臨床検査			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	高田 智世 (臨床検査技師)			時間割	金3・4限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	臨床検査法に関する基礎知識を習得するとともに各々の検査法の目的および検査の臨床的意義について理解し、検査成績の見方を学び患者に対応できる能力を養う。						
学習到達目標	日常診療で用いられている臨床検査の種類と目的を説明できる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 臨床検査技師としての豊富な臨床経験を持つ講師が、その経験を活かし臨床検査の基本的知識を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	臨床検査法とは	臨床検査の目的および歯科衛生士としての関わりや臨床検査の種類および基準値について学ぶ
2	検査成績の読み方	検査成績の表し方と基準値(正常範囲)の考え方
3	検体および結果の取り扱いについて	検体採取についての注意事項や検査の依頼・結果の取り扱い方
4	生体検査(生理機能検査)	生理機能検査の目的と個々の検査法および臨床的意義について学ぶ
5	尿検査について	尿検査の目的と個々の検査法および臨床的意義について学ぶ
6	検体検査 ①	血液を用いた検査の種類と検査に及ぼす影響について学ぶ 採血法について学ぶ
7	検体検査 ②	血液型および血液型の検査法について学ぶ
8	検体検査 ③	貧血の分類や種類について、また貧血の検査法について学ぶ
9	検体検査 ④	止血の仕組みと出血性素因および臨床検査の種類と意義について学ぶ
10	感染症検査	感染症について、感染症の臨床検査の種類と意義について学ぶ
11	病理検査	病理学的な検査について、口腔領域における病理検査について学ぶ
12	糖尿病の検査	糖尿病について、糖尿病の検査法について学ぶ
13	肝機能検査	肝機能検査の種類と臨床的意義について学ぶ
14	腎機能検査	腎機能検査の種類と臨床的意義について学ぶ
15	口腔領域の臨床検査	齲蝕活動試験など歯科領域の臨床検査について学ぶ

使用テキスト 教材・教具	歯科衛生学シリーズ『臨床検査』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	必要に応じて資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	予習・復習を各自で行うとともに積極的に授業に参加すること。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	臨床実習Ⅲ			時間数 (コマ数)	180 (90)	単位数	4
担当教員 (資格等)	―			時間割	―	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	口腔保健の専門職として、学内で習得した知識・技能・態度を臨床の場において、実践できる能力を身につける。歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての自分の将来像を明確にする。						
学習到達目標	①口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。 ②臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し実践する。 ③対象者の問題を総合的に把握し、理解する能力を身につける。 ④保健・医療・福祉の場において、多職種と協働する能力を身につける。 ⑤コミュニケーション能力を身につける。 ⑥自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 県内の歯科医療機関(歯科医院等)で実際に診療に携わる歯科医師・歯科衛生士が、実習を指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
Ⅲ期	Ⅲ期-①, ②	学習の集大成として自己を客観的に評価し、不足している能力の向上に努める
		医療従事者としての望ましい人間性を確立する
		・指示された方法でスケーリングを行う ・患者管理を目的とした指導計画の立案えお業務記録の作成を行う
		・学内で習得した知識，技術を実践に活かすことができる ・略称を理解しカルテから歯科診療の流れを把握することができる
		・エックス線写真から情報を読み取ることができる ・自ら先読みして行動することができる

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	各実習施設からの実習評価表50%・実技チェックおよび口頭試問50%とする。		
履修上の留意点	100%出席とする。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	臨地実習Ⅱ			時間数 (コマ数)	180 (90)	単位数	4
担当教員 (資格等)	―			時間割	―	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生業務を習得するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。						
学習到達目標	既習の知識・技能を実践と結びつけながら業務の理解を深め、対象者のニーズに応じた対応ができる。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 各実習施設において、各サービスに携わる専門職より実習指導を受ける。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
Ⅱ期	・保健所	①保健所・保健センターの業務の概要を理解する ②地域保健活動に参加する
		③ライフステージに合わせた歯科保健指導をする ④住民の人権に配慮した対応をする
		⑤専門職種の業務の概要を理解する ⑥他の専門職とコミュニケーションをとる
	・障害児(者)施設	①障害児(者)や家族の人権・人格を尊重した対応をする ②生活者としての人間理解をする
		③障害についての基礎知識を理解する ④服用薬剤について、基礎知識を理解する
		⑤歯および口腔の器質的・機能的特徴を理解する ⑥口腔保健管理に必要な情報を収集する
		⑦歯科治療における ⑧口腔ケアを実践する
		⑨障害児(者)や家族とのコミュニケーションを図る ⑩多職種と連携して行動する
	・要介護高齢者施設 ・介護療養型医療施設	①施設の特徴を理解する ②利用者とのコミュニケーションをとる
		③利用者の人権に配慮した対応をとる ④ケアプランや看護記録などから情報を収集する
		⑤アセスメントに基づく口腔ケアプランを実施する ⑥対象者の口腔状態に合わせたケア器具を選択する
		⑦口腔ケア業務記録票を記入する ⑧他の専門職やスタッフと連携する
		⑨使用者の安全に配慮する ⑩感染予防に配慮する
		⑪「介護職員初任者研修」修了程度の業務を実施する

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	各実習施設からの評価表100%とする。		
履修上の留意点	100%出席とする。	検定試験の概要	
備考			

授業科目	社会保険 医療事務歯科 ①	時間数（コマ数）	60 (30)	単位数	4
担当教員（資格等）	清水　綾（歯科衛生士免許・メディカルクラーク2級）	時間割	ー	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科　3年
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士が身に付けるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解し、健康保険法の規定による療養に要する費用の算定並びに療養担当規則等の理解をする。				
学習到達目標	健康保険法の規定による、療養に要する費用の算定および療育担当規則等を理解し、医療事務技能審査試験合格を目指す。				
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科診療所にて歯科診療および医療事務業務に携わった経験を持つ教員が、講義と指導を行う。			

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	医療保険制度	医療機関と医事業務・医療保険のしくみと種類
2	〃	後期高齢者医療制度・診療報酬・公費負担医療制度
3	〃	介護保険制度・電子カルテシステム・保険外併用療養費・DPC制度
4	まとめ	練習問題・復習
5	患者接遇マナー	患者接遇マナー・職場のコミュニケーション
6	診療報酬点数算定	初診料・再診料・医学管理等
7	〃	在宅医療・投薬
8	〃	画像診断・麻酔・検査
9	〃	歯冠修復
10	症例による点数算定と規則	初期う蝕の治療・歯髄炎の治療
11	〃	感染根管の治療・その他の治療
12	〃	歯周疾患の治療・口腔粘膜等の治療
13	〃	欠損補綴（ブリッジ）
14	〃	欠損補綴（義歯）
15	まとめ	練習問題・復習

使用テキスト教材・教具	『医療事務講座 医科・歯科テキスト①・②』『医療事務講座 歯科テキスト③・④』 『医療事務講座 歯科サブテキスト』『医療事務講座 歯科スタディブック』　ニチイ学館		
参考図書参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100％とする。		
履修上の留意点	欠席した場合、次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	医療事務技能審査試験（歯科）
備考			

授業科目	社会保険 医療事務歯科 ②			時間数 (コマ数)		単位数	
担当教員 (資格等)	清 水　綾 (歯科衛生士免許・メディカルクラーク2級)			時間割	ー	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士が身に付けるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解し、健康保険法の規定による療養に要する費用の算定並びに療養担当規則等の理解をする。						
学習到達目標	健康保険法の規定による、療養に要する費用の算定および療育担当規則等を理解し、医療事務技能審査試験合格を目指す。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科診療所にて歯科診療および医療事務業務に携わった経験を持つ教員が、講義と指導を行う。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
16	明細書点検	カルテとのつき合わせ点検　カルテ1～3
17	〃	〃　カルテ4～7
18	〃	〃　カルテ8～11
19	〃	〃　カルテ12～14
20	〃	明細書上の点検　カルテ15～17
21・22	模擬試験	模擬試験問題A・復習
23・24	〃	模擬試験問題B・復習
25・26	〃	模擬試験問題C・復習
27・28	〃	模擬試験問題D・復習
29・30	〃	模擬試験問題E・復習

使用テキスト 教材・教具	『医療事務講座 医科・歯科テキスト①・②』『医療事務講座 歯科テキスト③・④』 『医療事務講座 歯科サブテキスト』『医療事務講座 歯科スタディブック』　ニチイ学館		
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点	欠席した場合、次回に繋がらなくなるので注意。	検定試験の概要	医療事務技能審査試験(歯科)
備考			

授業科目	摂食機能訓練法			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	壽川 明音 (歯科衛生士免許)			時間割	木1・2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	歯科衛生士として摂食・嚥下障害患者に対応するために摂食・嚥下機能およびリハビリテーションに対する基本的な知識と技術を学ぶ。						
学習到達目標	摂食・嚥下機能とその障害および必要な検査とリハビリテーションについての知識を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 歯科衛生士として多くの症例に関わり、幅広い知識と経験を持つ講師が、その経験を活かし摂食機能に関わる基礎知識を講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	歯科衛生士と 摂食嚥下リハビリテーション	食べることを考える、歯科衛生士の役割
2	摂食嚥下機能のメカニズム	摂食嚥下に関わる構造(解剖・生理)
3	咬合・咀嚼機能管理と評価	咬合と咀嚼機能の評価と管理、全身
4	栄養管理	栄養スクリーニング、アセスメント、NST
5	リスクマネジメント	全身管理、緊急時対応、気管切開、吸引
6	小テスト・復習	小テストの実施、1～5復習・まとめ
7	病態別摂食嚥下障害	発達期・成人期・老年期摂食嚥下障害、疾患
8	摂食嚥下の評価	歯科衛生士が行うスクリーニングテスト、観察評価
9	口腔衛生管理	口腔衛生管理の実際
10	小テスト・復習	小テストの実施、7～9復習・まとめ
11	摂食嚥下訓練	計画立案、食事指導・訓練法
12	摂食嚥下リハビリテーション の実際	DVD、痂皮除去練習
13	歯科衛生士が行う 摂食嚥下リハビリテーション	歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本
14	グループワーク	摂食嚥下障害者の症例展開
15	まとめ	小テストの実施、まとめ

使用テキスト 教材・教具	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 医歯薬出版株式会社		
参考図書 参考文献	才藤栄一著 向井美恵監修『摂食嚥下リハビリテーション(第2版)』 医歯薬出版株式会社 藤島一郎・柴本勇監修『動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション』 中山書店		
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点		検定試験の 概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅲ ①			時間数 (コマ数)	90 (45)	単位数	6
担当教員 (資格等)	庄司 洋史(歯科医師免許) 清水 綾(歯科衛生士免許)			時間割	—	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	多職種との協働に必要な知識を習得し、専門家として役割を果たすための知識の活用方法を養う。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1～3	歯科衛生士が関わる医科疾患患者	主な全身疾患の理解と口腔内所見、歯科治療における注意点
4～6	〃	臨床検査データを読み解く
7～9	〃	周術期における歯科診療と歯科衛生士の役割
10	〃	多職種連携
11	〃	歯科訪問診療
12	〃	緩和ケア・ターミナルケア
13	まとめ	小テスト・復習
14	硬組織の異常と歯科治療	歯の構造異常と形態異常
15・16	〃	硬組織の異常とう蝕・歯周病のリスク
17～19	歯内療法の理解	歯髄疾患の臨床的分類と症状・治療法
20	〃	根尖性歯周組織疾患の分類と症状・治療法
21	〃	外科的歯内療法と使用器材
22	〃	歯内療法と歯科材料
23	まとめ	小テスト・復習
24・25	歯周疾患の理解	歯周病の治療計画と治療

使用テキスト 教材・教具			
参考図書 参考文献			
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の留意点		検定試験の概要	
備考			

授業科目	歯科医療総論Ⅲ ②			時間数（コマ数）		単位数	
担当教員（資格等）	庄司 洋史（歯科医師免許） 清水 綾（歯科衛生士免許）			時間割	―	開講期	前後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者（学科・学年）	歯科衛生学科 3年		
授業科目のテーマと目的	歯科医療に携わるにあたり必要な知識・技術・態度を総合的に高め、質の高い歯科衛生士を目指す。根拠に基づいた医療を提供できるよう、全科目で習得した知識を繋げ、さらなる知識を習得する。						
学習到達目標	多職種との協働に必要な知識を習得し、専門家として役割を果たすための知識の活用方法を養う。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 国内外の大学にて物質および生物に関する研究実績を有する歯科医師と、歯科医療現場での幅広い実務経験を有する歯科衛生士が、その知識と経験をもとに講義する。					
コマ割							
26・27	歯周疾患の理解	歯周外科手術の種類と適応・使用器材					
28	補綴治療の理解	補綴治療で重要な基準平面と彎曲					
29	〃	下顎運動と下顎位					
30	〃	補綴装置の種類と患者指導					
31・32	〃	補綴装置作製の流れと歯科材料					
33	まとめ	小テスト・復習					
34	矯正治療の理解	正常咬合と不正咬合					
35	〃	症例分析					
36	〃	矯正装置の種類と患者指導					
37・38	〃	矯正治療に使用する器材					
39	小児歯科の理解	小児の発育と歯科診療時の対応法					
40・41	〃	小児の歯科疾患と治療					
42～44	歯科衛生過程	歯科医療における歯科衛生過程の活用					
45	まとめ	小テスト・復習					
使用テキスト教材・教具							
参考図書参考文献							
成績評価の方法・基準	学科試験100%とする。						
履修上の留意点				検定試験の概要			
備考							

授業科目	手　話			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	楠本 博江 (手話通訳士)			時間割	水4限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・学年)	歯科衛生学科　3年		
授業科目のテーマと目的	聴覚障がい者や手話への関心を育みつつ、医療の場で必要な手話技術を学ぶ。障がい理解を深め、聞こえない人や高齢難聴者に対する配慮ある態度を学習する。						
学習到達目標	医療の場で必要な手話技術を習得する。						
担当教員の授業に関わる実務経験	☑ 有 □ 無	【実務経験内容】 手話通訳士であり、意思疎通支援事業に携わる講師が、様々な経験を活かし手話の基礎を指導する。					

コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度	
1	手話の基本 ①	基本手話(挨拶)、手話の基礎知識
2	手話の基本 ②	基本手話(名前)、聴覚障がい者の生活
3	手話の基本 ③	基本手話(数の表現)、聴覚障がいの基礎知識
4	手話の基本 ④	基本手話(家族)、会話演習
5	手話の基本 ⑤	基本手話(趣味)、会話演習
6	まとめ	前半まとめ
7	手話の応用 ①	医療場面、会話演習、医療手話
8	手話の応用 ②	医療場面、会話演習、医療手話
9	手話の応用 ③	医療場面、会話演習
10	手話の応用 ④	医療場面、会話演習
11	手話の応用 ⑤	医療場面、会話演習
12	手話の応用 ⑥	医療場面、会話演習
13	手話の応用 ⑦	医療場面、会話演習
14	手話の応用 ⑧	医療場面、会話演習
15	まとめ	総まとめ

使用テキスト 教材・教具	厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム対応『手話で学ぼう　手話で話そう』		
参考図書 参考文献			
成績評価の 方法・基準	学科試験100%とする。		
履修上の 留意点	復習すること。	検定試験の 概要	
備考			

松山歯科衛生士専門学校　カリキュラム（令和5年度）

分野	教育内容	科目	時間数／単位数								指定規則単位
			1年		2年		3年		合計		
			時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	
基礎分野	科学的思考と基盤	生化学	30	2					30	2	10
	人間と生活	心理学			30	2			30	2	
		英語			30	2			30	2	
		情報処理論	30	2					30	2	
		コミュニケーション論	30	2					30	2	
	小計		90	6	60	4	0	0	150	10	10
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学	40	2					40	2	4
		生理学	30	2					30	2	
		栄養学	30	2					30	2	
		小計	100	6	0	0	0	0	100	6	
	歯・口腔の構造と機能	組織発生学・口腔解剖学	45	3					45	3	5
		歯牙解剖学	45	3					45	3	
		口腔生理学	30	2					30	2	
		小計	120	8	0	0	0	0	120	8	
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学	45	3					45	3	6
		微生物学・口腔微生物学	30	2					30	2	
		薬理学・歯科薬理学	30	2					30	2	
		医学の基礎知識			30	2			30	2	
		小計	105	7	30	2	0	0	135	9	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学					45	3	45	3	7
		歯科保健統計学					30	2	30	1	
		衛生学・公衆衛生学					30	2	30	2	
		衛生行政・社会福祉					30	2	30	2	
		小計	0	0	0	0	135	9	135	9	
	小計		325	21	30	2	135	9	490	32	22
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	30	2					30	2	2
		小計	30	2	0	0	0	0	30	2	
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	40	2					40	2	8
		保存修復学	30	2					30	2	
		歯内療法学			30	2			30	2	
		歯周病学			30	2			30	2	
		歯科補綴学			30	2			30	2	
		口腔外科学			40	2			40	2	
		小児歯科学			30	2			30	2	
		歯科矯正学			30	2			30	2	
		歯科放射線	30	2					30	2	
		高齢者歯科			30	2			30	2	
		障害者歯科			30	2			30	2	
		小計	100	6	250	16	0	0	350	22	
	歯科予防処置論	歯科予防処置論Ⅰ	150	5					150	5	8
		歯科予防処置論Ⅱ			60	2			60	2	
		歯科予防処置論Ⅲ					45	1	45	1	
		小計	150	5	60	2	45	1	255	8	
	歯科保健指導論	歯科保健指導論Ⅰ	90	3					90	3	7
		歯科保健指導論Ⅱ			60	2			60	2	
		歯科保健指導論Ⅲ					30	1	30	1	
		訪問歯科保健指導					45	3	45	3	
		小計	90	3	60	2	75	4	225	9	
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	150	5					150	5	9
		歯科診療補助論Ⅱ			30	1			30	1	
		歯科診療補助論Ⅲ					30	1	30	1	
		歯科材料学					30	2	30	2	
		看護学			30	2			30	2	
		臨床検査					30	2	30	2	
		介護技術論			56	3			56	3	
		介護技術演習			42	2			42	2	
		小計	150	5	158	8	90	5	398	18	
	臨地実習（臨床実習を含む）	臨床実習Ⅰ	180	4					180	4	20
		臨床実習Ⅱ			315	7			315	7	
		臨床実習Ⅲ					180	4	180	4	
		臨地実習Ⅰ			13	1			13	1	
		臨地実習Ⅰ（介護施設実習）			32				32		
		臨地実習Ⅱ					180	4	180	4	
		小計	180	4	360	8	360	8	900	20	
	小計		700	25	888	36	570	18	2,158	79	54
選択必修	必修	社会保険　医療事務歯科					60	4	60	4	7
		摂食機能訓練法					30	2	30	2	
		歯科医療総論Ⅰ	60	4					60	4	
		歯科医療総論Ⅱ			90	6			90	6	
		歯科医療総論Ⅲ					90	6	90	6	
		手話					30	2	30	2	
	小計		60	4	90	6	210	14	360	24	7
総合計			1,175	56	1,068	48	915	41	3,158	145	93

1　講義及び演習は15～30時間を1単位とし、実習は30～45時間を1単位とする。
2　臨床・臨地実習は45時間を1単位とする。

令和5年度　カリキュラム担当講師一覧

科　目	講師名	所属機関	時間数 合計時間数	1年時間数	2年時間数	3年時間数
生化学	庄司 洋史	松山歯科衛生士専門学校　顧問　歯科医師	30	30		
歯科医療総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	清水 綾	松山歯科衛生士専門学校　副校長　専任教員歯科衛生士	240	60	90	90
心理学	森岡 千穂	松山大学　人文学部　社会学科　准教授	30		30	
英語	大嶋 美智	株式会社Egg＆Chick　代表取締役	30		30	
情報処理論	四田 素子	株式会社エンカレッジ　ITチーフインストラクター	30	30		
コミュニケーション論	小笠原 聖幸	元 中学校 教員	30	30		
	重橋 秀香	フリーアナウンサー				
解剖学	土居原 拓也	愛媛大学大学院医学系研究科　生体構造医学講座	40	40		
生理学	庄司 洋史	松山歯科衛生士専門学校　顧問　歯科医師	30	30		
衛生学・公衆衛生学			30			30
栄養学	田中 洋子	松山東雲短期大学　食物栄養学科　学科長・准教授	30	30		
組織発生学・口腔解剖学	佐藤 大輔	医療法人サトウ歯科　理事長	45	45		
	庄司 洋史	松山歯科衛生士専門学校　顧問　歯科医師				
歯牙解剖学	玉田 司	タマダ歯科　院長	45	45		
口腔生理学	浜川 知大	医療法人永頼会 松山市民病院　歯科口腔外科　医長	30	30		
口腔外科学			40		40	
病理学・口腔病理学	足立 智子	愛媛大学大学院医学系研究科　口腔顎顔面外科学講座	45	45		
微生物学・口腔微生物学	亀井 隆行	医療法人かめのこ歯科　院長	30	30		
薬理学・歯科薬理学	渡邉 真一	松山大学　薬学部　医療薬学科　准教授	30	30		
医学の基礎知識	窪田 志穂	人間環境大学　松山看護学部看護学科　講師	30		30	
	杉本 由起子	人間環境大学　松山看護学部看護学科　講師				
口腔衛生学	川上 三紀	一般社団法人愛媛県歯科衛生士会　会長　歯科衛生士	45			45
歯科保健統計学	藤田 陽平	おひさま歯科クリニック　院長	30			30
歯科放射線			30	30		
衛生行政・社会福祉	田中 顕悟	聖カタリナ大学　人間健康福祉学部　健康福祉学科　教授	30			30
歯科衛生士概論	清水 綾	松山歯科衛生士専門学校　副校長　専任教員歯科衛生士	30	30		
訪問歯科保健指導			45			45
歯科材料学			30			30
社会保険　医療事務歯科			60			60
歯科臨床概論	西岡 信治	西岡歯科医院　院長	40	40		
歯周病学			30		30	
保存修復学	浪瀧 文彦	浪瀧歯科医院　副院長	30	30		
歯内療法学			30		30	
歯科補綴学	佐々木 正和	医療法人佐々木歯科　院長	30		30	
小児歯科学	渡邊 正知	医療法人こぐま小児歯科　院長	30		30	
歯科矯正学	藤田 和久	和矯正歯科クリニック　院長	30		30	
高齢者歯科	尾崎 忠克	医療法人グリーン歯科クリニック　歯科医師	30		30	
障害者歯科	薦田 浩詞	こもだデンタルオフィス宮原　歯科医師	30		30	
歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	佐藤 奈美	松山歯科衛生士専門学校　専任教員歯科衛生士	255	150	60	45
	北風 佳奈子					
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	佐藤 奈美	松山歯科衛生士専門学校　専任教員歯科衛生士	180	90	60	30
	北風 佳奈子					
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	清水 綾	松山歯科衛生士専門学校　副校長　専任教員歯科衛生士	210	150	15	30
	北風 佳奈子	松山歯科衛生士専門学校　専任教員歯科衛生士				
(口腔外科時)	足立 智子	愛媛大学大学院医学系研究科　口腔顎顔面外科学講座			15	
看護学	安部 幸代	看護師	30		30	
臨床検査	高田 智世	愛媛県立医療技術大学　臨床検査学科　准教授	30			30
介護技術論	井川 義伸 他7名	介護福祉士　他	56		56	
介護技術演習			42		42	
臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	臨床実習施設一覧参照		675	180	315	180
臨地実習Ⅰ・Ⅱ	臨地実習施設一覧参照		193		13	180
臨地実習Ⅰ(介護施設実習)	介護施設実習一覧参照		32		32	
摂食機能訓練法	壽川 明音	天山歯科クリニック　歯科衛生士長　歯科衛生士	30			30
手話	楠本 博江	手話通訳士	30			30

教職員

校　長	室　利幸
顧　問	庄司 洋史
副校長/学科長	清水 綾
1年担任	北風 佳奈子
2年担任	佐藤 奈美
3年担任	髙市 邦江

Matsuyama
Business
College